

〔医療管理学講座〕

(1) 医療情報学分野

1. 研究の概要

情報通信技術 (ICT) の発展によりライフサイエンスに関する大量のデータが発生・データベース化されつつある。また、EBM (evidence based medicine ; 科学的根拠に基づいた医療の実践) が叫ばれる中、コンピュータ技術・情報処理分野からの技術移転だけでなく、蓄積された大規模データの定量的な解析・分析手法の開発や解釈、個別化医療や創薬に役立つ新しい知見の発見が望まれており、ライフサイエンス分野における新しいデータサイエンスの確立が急がれている。

医療情報学分野では、このような社会的要望に応えること、特にライフサイエンス分野でのデータサイエンスを構築することを目指し、日常診療で発生する各種患者情報や健診で発生する健康情報等を統合的・体系的に管理・運用する統合バイオバンクシステムの構築と運用、個別化医療への展開を目的とした診療プロセスの管理・分析手法の開発、医薬品の適正使用や有害事象分析のための知識発見手法の開発、医療経済・医療経営人材育成プログラムの開発などを研究している。また、ゲノム・ポストゲノム時代のオミックス医療に必要なバイオ・インフォマティクスの創造と体系化・構築、molecular imaging 手法の開発、診療の成果分析手法の開発、等を研究している。

2. 名簿

教授： 紀ノ定保臣 Yasutomi Kinosada
准教授： 内山良一 Yoshikazu Uchiyama

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 紀ノ定保臣. IV 医療経営管理体制構築・実施に関する知識 9 医療経営管理論(3): 医療経営コンサルタント認定講座・認定試験テキスト, 東京: 社団法人日本医療経営コンサルタント協会; 2007年: 317-359.
- 2) 紀ノ定保臣. 認定登録医療経営コンサルタント上級ビジネスコース研修所 編集. 経営管理体制の構築IX (情報管理体制の整備): 認定登録医療経営コンサルタント(上級ビジネスコース)テキスト, 東京: 社団法人日本医療経営コンサルタント協会; 2007年: 17-4-1-17-4-9, 17-5-1-17-5-8, 17-9-1-17-9-8, 17-10-1-17-10-9.
- 3) 紀ノ定保臣. ベンダー選定手順提案: 情報化認定コンサルタント指定講座・一次試験テキスト, 東京: 社団法人日本医療経営コンサルタント協会; 2008年: 125-133.
- 4) 紀ノ定保臣. テスト・リハーサル支援: 情報化認定コンサルタント指定講座・一次試験テキスト, 東京: 社団法人日本医療経営コンサルタント協会; 2008年: 177-180.
- 5) 紀ノ定保臣. 導入システムの品質評価: 情報化認定コンサルタント指定講座・一次試験テキスト, 東京: 社団法人日本医療経営コンサルタント協会; 2008年: 181-188.
- 6) 紀ノ定保臣. 意思決定活用支援: 情報化認定コンサルタント指定講座・一次試験テキスト, 東京: 社団法人日本医療経営コンサルタント協会; 2008年: 205-215.
- 7) 紀ノ定保臣. 電子カルテ: 大関武彦, 近藤直実総編集. 小児科学第3版, 東京: 医学書院; 2008年: 286-289.
- 8) 紀ノ定保臣. 医療経営教育協議会「医療マネジメント」企画編集委員会編. 組織の活性化—オペレーションマネジメント—: 医療マネジメント—医療の質向上のための医療経営学—, 東京: (株)日経メディカル開発; 2008年: 206-229.
- 9) 紀ノ定保臣. 医療機関の ICT 戦略: 医療経営教育協議会「医療マネジメント」企画編集委員会編. 医療マネジメント—医療の質向上のための医療経営学—, 東京: (株)日経メディカル開発; 2008年: 230-255.
- 10) 深津博, 安藤裕, 紀ノ定保臣, 奥真也, 川渕孝一, 黒崎馨. Medical IT の現在そして未来—「時代の変化」に対処するための処方箋—: Medical IT 2008-2009 MOOK, 東京: 産業開発機構株式会社; 2008年: 20-37.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 紀ノ定保臣. IT を活用した新時代の病院経営③—システム設計の考え方と構築体制—, IT VISION 2006年; 10巻: 46-50.
- 2) 北島康雄, 紀ノ定保臣, 白鳥義宗, 堀畑利治. 岐阜大学医学部附属病院「電子カルテシステム導入について」(1), 国立大学マネジメント 2006年; 1巻: 2-12.
- 3) 紀ノ定保臣. 岐阜大学医学部附属病院のインテリジェント化—“見えざる財産 (intangible assets)” の力

- とその可視化がシステム運用のポイントー, Kodak view 2006年;7巻:20-25.
- 4) 北島康雄, 紀ノ定保臣, 白鳥義宗, 堀畑利治. 岐阜大学医学部附属病院「電子カルテシステム導入について」(2), 国立大学マネジメント 2006年;2巻:12-24.
 - 5) 紀ノ定保臣. 電子カルテシステム運用による DPC への対応とデータ活用, 新医療 2006年;33巻:118-121.
 - 6) 紀ノ定保臣. IT を活用した新時代の病院経営④ーシステムが与えるインパクトー, IT VISION 2006年;11巻:54-58.
 - 7) 紀ノ定保臣. 迅速診断による効率化の視点からみた PACS の位置づけを問う, 新医療 2006年;33巻:48-50.
 - 8) 紀ノ定保臣. IT を活用した医療経営支援ー“見える化”と“数値化”, その意味ー, 新医療 2006年;33巻:48-51.
 - 9) 紀ノ定保臣. 循環器医療における IT の役割と可能性を考える, 日本循環器学会専門医誌 循環器専門医 2006年;14巻:263-269.
 - 10) 紀ノ定保臣. IT を活用した新時代の病院経営⑤ー医療の IT 化が生み出す新たな展開ー, IT VISION 2006年;12巻:52-56.
 - 11) 紀ノ定保臣. 大学病院での電子カルテによる診療の現状, 日本医師会雑誌 2006年;第135巻:1967-1971.
 - 12) 紀ノ定保臣. 米国先進医療 IT 事情と日本の進むべき方向性についての考察, 新医療 2006年;33巻:150-153.
 - 13) 紀ノ定保臣. 大学病院での電子カルテによる診療の現状, 日本医師会雑誌 2006年;135巻:1967-1971.
 - 14) 紀ノ定保臣. 岐阜大学医学部附属病院 理想のインテリジェント・ホスピタルを目指して(セキュリティを中心に)The Way to the Intelligent Hospital (番外編), Kodak view 8 2007年;22-26.
 - 15) 紀ノ定保臣. 医療と IT, bios 2007年;12巻:3-6.
 - 16) 松島秀, 紀ノ定保臣. 分子イメージングの最新動向ーMRI を中心にー, INNERVISION 2007年;22巻:30-31.
 - 17) 紀ノ定保臣. 病院における IT 活用の現状と課題, 岐阜県病院時報 2007年;第41号:3.
 - 18) 紀ノ定保臣. 診療情報管理機能を有する安全性確保型同時書込みシステム CDBS (Clinical Data Backup System)の開発, G-NICE News Letter 2007年;24巻:2-3.
 - 19) 山本眞由美, 武田純, 紀ノ定保臣. SMBG データの電子カルテ上での運用は?, 肥満と糖尿病 2007年;6巻:475-477.
 - 20) 稲岡則子, 紀ノ定保臣, 宇都由美子, 石原謙, 伏見清秀. データウェアハウスとデータ利活用, 医療情報学 2007年;27巻:261-268.
 - 21) 紀ノ定保臣. これからの病院情報システムの方向性について, 第92回近畿病歴管理セミナー記録集 2007年;1-5.
 - 22) 紀ノ定保臣, 酒井順哉, 平川秀紀, 神野正博. 電子カルテをここまで活用している, 病院 2007年;66巻:1013-1020.
 - 23) 紀ノ定保臣. 医療の質向上へどのように貢献するか, 日本放射線技師会雑誌 2008年;55巻:31-32.
 - 24) 紀ノ定保臣. フィルムレスの効果を「見える化」し医療機関経営に貢献する PACS の導入が求められている, IT Vision 2008年;15巻:26-27.
 - 25) 山本眞由美, 紀ノ定保臣, 高塚直能. IT が実現する医療現場での効率化「医療専門職のマネジメント教育における IT 活用の可能性」, 新医療 2008年;35巻:54-57.
 - 26) 松島秀, 紀ノ定保臣. 分子イメージングの最新動向ーMR を中心にー, INNERVISION 2008年;23巻:38-39.
 - 27) 松島秀, 紀ノ定保臣. 交差緩和率イメージングによるがん診断, 映像情報 MEDICAL 2008年;40巻:480-484.
 - 28) 紀ノ定保臣, 医療機関における IT 戦略とデータの活用, 月刊ジャーマック 2008年;19巻:23-26.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 山本眞由美, 武田純, 紀ノ定保臣. 全機種自己血糖測定器のデータを岐阜大学病院の電子カルテ上で運用させる試み, 肥満と糖尿病 2006年;5巻別冊5:47-51.
- 2) 紀ノ定保臣, 梅本敬夫, 猪口明博, 武田浩一, 稲岡則子. マイニング技術を活用した定量的な診療プロセス分析への挑戦, 医療情報学 2006年;26巻:191-199.
- 3) 太田浩敏, 古田伸行, 服部高幸, 丸本雅夫, 前田悟司, 紀ノ定保臣, 竹村正男, 伊藤弘康, 斉藤邦明, 清島満. 完全電子化病院における検査付加価値情報提供の評価についてーアンケート調査結果からー, 日本臨床検査自動化学会誌 2008年;33巻:295-300.
- 4) 岡安伸二, 下田浩欣, 紀ノ定保臣, 武田純, 山本眞由美. インスリンの安全管理に関する電子カルテ機能の有用性と問題点, 肥満と糖尿病(日本糖尿病情報学会論文誌) 2008年;7巻:28-35.
- 5) 山本眞由美, 川出靖彦, 戸谷理英子, 武田純, 梅本敬夫, 紀ノ定保臣. 岐阜県医師会病診連携システムにおける糖尿病病診連携サポートシステムの試作, 肥満と糖尿病(日本糖尿病情報学会論文誌) 2008年;7巻:56-61.

- 6) 下田浩欣, 岡安伸二, 紀ノ定保臣, 武田純, 山本眞由美. 電子カルテ情報から分析する大学病院の糖尿病患者の特徴分析の試行—業務を可視化する有用性について—, 肥満と糖尿病(日本糖尿病情報学会論文誌) 2008年; 7巻: 89-93.
- 7) 國枝琢也, 内山良一, 原武史, 藤田広志, 加藤博基, 浅野隆彦, 星博昭, 山川弘保, 安藤弘道, 岩間亨. クラスターリングを用いた脳ドック MR 画像における無症候性大脳白質病変の検出法, Medical Imaging Technology 2008年; 26巻: 39-47.
- 8) 山内将史, 内山良一, 小椋潤, 横山龍二郎, 原武史, 安藤弘道, 山川弘保, 岩間亨, 星博昭, 藤田広志. 脳 MRA 画像における閉塞の検出, Medical Imaging Technology 2008年; 26巻: 251-260.

原著 (欧文)

- 1) Inaba T, Nakano T, Tsutsumi M, Kawasaki S, Kinoshita Y, Tokuda M. Quantitative Evaluation of Left Ventricular Wall Motion in Patient with Coronary Artery Bypass Grafting Using Magnetic Resonance Tagging Technique, JSME International Journal. 2006;49:597-603. IF 0.298
- 2) Matsushima S, Nishiofuku H, Iwata H, Era S, Inaba Y, Kinoshita Y. Equivalent cross-relaxation rate imaging of axillary lymph nodes in breast cancer, J Mag Reson Imag. 2008;27:1278-1283. IF 2.209
- 3) Uchiyama Y, Kunieda T, Asano T, Kato H, Hara T, Kanematsu M, Iwama T, Hoshi H, Kinoshita Y, Fujita H. Computer-aided diagnosis scheme for classification of lacunar infarcts and enlarged Virchow-Robin spaces in brain MR images. Proc of IEEE Engineering in Medicine and Biology Society. 2008:3908-3911. IF 1.066

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 紀ノ定保臣, 研究分担者: 白鳥義宗, 竹内登美子; 文部科学省科学研究補助金基盤研究(B): 「次世代電子カルテシステムによる診療工程・病院運営工程の統合分析環境の構築と解析」; 平成 17-18 年度; 12,100 千円(7,400 : 4,700 千円)
- 2) 研究代表者: 松島秀; がんその他の悪性新生物研究助成金(財団法人愛知県がん研究振興会); Equivalent cross relaxation image による molecular lymph node imaging; 平成 18 年度; 500 千円
- 3) 研究代表者: 白鳥義宗, 研究分担者: 森脇久隆, 紀ノ定保臣, 半田宏, 四童子好広; 基盤研究(C): 「癌細胞における核内受容体ならびに膜受容体の異常とその制御に関する研究」; 平成 16-18 年度; 3,400 千円(1,700 : 1,100 : 600 千円)
- 4) 研究代表者: 松島秀, 研究分担者: 紀ノ定保臣, 恵良聖一; 基盤研究(C)(2): 「MRI を用いた腫瘍細胞密度を可視化する分子画像の開発と癌治療への応用」; 平成 19-20 年度; 3,300 千円(2,200 : 1,100 千円)
- 5) 研究代表者: 松島秀; がんその他の悪性新生物研究助成金(財団法人愛知県がん研究振興会): 肝細胞癌患者における個別化医療を目指した MR-Cellular imaging; 平成 19 年度; 500 千円
- 6) 研究代表者: 恵良聖一, 研究分担者: 松島秀, 紀ノ定保臣; 基盤研究(C)(2): 「磁気共鳴法による生体組織病変検出のための分子イメージングの開発と臨床応用」; 平成 19-20 年度; 3,570 千円(2,470 : 1,100 千円)
- 7) 研究代表者: 下村眞美(大阪大学高等司法研究所), 研究分担者: 藤本利一(大阪大学), 紀ノ定保臣; 基盤研究(C)(2): 「医療訴訟における医療情報システムのあり方に関する研究」; 平成 20-22 年度; 3,500 千円(1,200 : 1,100 : 1,200 千円)
- 8) 研究代表者: 内山良一; 文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)(若手): ラクナ梗塞鑑別のためのコンピュータ支援診断; 平成 20-21 年度; 1,700 千円(900 : 800 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

- 1) 紀ノ定保臣, 松島秀, 恵良聖一, 長田真二: MR 装置による磁化移動効果法と効果比演算を併用した病変異常の早期検出法; 平成 19 年(特許出願中)
- 2) 藤田広志, 内山良一, 岩間亨, 安藤弘道, 二村仁: 医用画像処理装置(特許); 平成 20 年(特許 4139869 号)

- 3) 藤田広志, 内山良一: 医用画像処理装置及び異常陰影検出方法(発明); 平成 20 年(特願 2008-75961)

6. 学会活動

1) 学会役員

紀ノ定保臣:

- 1) 日本磁気共鳴医学会理事(~現在)
- 2) 日本生体医工学会代議員(~現在)
- 3) 日本医療情報学会評議員(~現在)
- 4) 日本医学放射線学会電子情報委員会委員(~現在)

2) 学会開催

紀ノ定保臣:

- 1) 第 29 回 MR 基礎講座(平成 19 年 8 月, 東京)
- 2) 平成 19 年度日本生体医工学会東海支部学術集会(平成 19 年 10 月, 東京)

3) 学術雑誌

内山良一:

- 1) コンピュータ支援画像診断学会誌; 編集委員(~平成 20 年 10 月)
- 2) 医用画像情報学会誌; 編集委員(平成 20 年 7 月~現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

紀ノ定保臣:

- 1) 平成 17 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議(平成 18 年 1 月, 静岡, 分科会 2「電子カルテデータベースの臨床研究データベースとしての利活用 -岐阜大学病院の場合-」演者)
- 2) 第 15 回日本脳神経外科コンピュータ研究会(平成 18 年 1 月, 山口, 特別講演「病院の IT 化と外科学への貢献を目指して」演者)
- 3) 第 12 回岐阜医療情報研究会(平成 18 年 1 月, 岐阜, プレナリーセッション「IT とロボットをつなぐ新しい技術が循環器医療の未来をどのように拓か」演者)
- 4) 平成 17 年度岐阜県医師会総合医療情報ネットワーク・岐阜地区総合医療情報ネットワーク合同総会(平成 18 年 2 月, 岐阜, 特別講演「岐阜県における IT を活用した病診連携システムの今後」演者)
- 5) 第 228 回医療とニューメディアを考える会(平成 18 年 2 月, 東京, 講演「岐阜大学病院における電子カルテシステム導入の成果」演者)
- 6) 平成 17 年度関東 IBM ユーザー研究会 第二回「IT ソリューション・セミナー」(平成 18 年 3 月, 東京, 講演「インテリジェントホスピタルにおける経営管理手法」演者)
- 7) 中部ホスピタルショウ 2006(平成 18 年 3 月, 愛知, 講演「次世代電子カルテシステムで進化する病院マネジメント」演者)
- 8) 第 70 回記念日本循環器学会プレナリーセッション(平成 18 年 3 月, 愛知, 講演「IT Impact on the Cardio-Vascular Robotic Surgery」演者)
- 9) 医療機関ソリューションセミナー(平成 18 年 5 月, 静岡, 講演「病院経営における IT の活用」演者)
- 10) 大垣市民病院 学術研修会(平成 18 年 6 月, 岐阜, 講演「DPC 制度の導入と病院運営の変化について」演者)
- 11) 岐大・十六産学連携医療 IT セミナー(平成 18 年 6 月, 岐阜, 講演「医療分野における IT 活用の方向性」演者)
- 12) 平成 18 年度みえメディカル研究会総会(平成 18 年 6 月, 三重, 講演「日本版 EHR -新たな生涯型健康・医療情報システムの構築に向けて-」演者)
- 13) 鷺見病院: 安全管理研修会(平成 18 年 9 月, 岐阜, 講演「電子カルテシステム: その構築と運用, 活用について」演者)
- 14) 岐大・十六産学連携医療 IT セミナー(平成 18 年 9 月, 岐阜, 講演「医療経営を支える情報分析技術 -Information-based management-」演者)
- 15) 第一回東海医療情報システム懇談会(平成 18 年 9 月, 愛知, 教育講演「電子カルテデータを有効に活用するための手法とシステム構築について」演者)
- 16) InterSystems in Healthcare セミナー(平成 18 年 10 月, 東京, 講演「医療 IT: 日米最新事情の比較と今後の取り組み」演者)

- 17) 第 44 回日本病院管理学会学術総会(平成 18 年 10 月, 愛知, シンポジウム「医療マネジメントに貢献する電子カルテシステム」演者)
- 18) 医療機関ソリューションセミナー(平成 18 年 10 月, 静岡, 講演「病院経営における IT の活用」演者)
- 19) 電子情報技術産業協会「ネットワークセンシング技術専門委員会」(平成 18 年 10 月, 東京, 講演「ネットワークセンシング技術を応用した病院運営手法について」演者)
- 20) 揖斐厚生病院セミナー(平成 18 年 10 月, 岐阜, 講演「DPC 制度の導入と病院運営の変化について」演者)
- 21) 第 4 回日本・ブラジル/地域・地域環境国際ワークショップ(平成 18 年 10 月, 岐阜, 講演「最先端医療と岐阜大学病院」演者)
- 22) ISACA 名古屋支部月例会(平成 18 年 10 月, 愛知, 講演「岐阜大学病院に見る情報システムの証拠保全能について」演者)
- 23) 平成 18 年度経済産業省「医療経営人材育成事業」医療専門職のための医療マネジメントセミナー(平成 18 年 10 月, 岐阜, 講演「医療情報管理と病院経営 (オペレーション管理)」演者)
- 24) 第 26 回医療情報学連合大会(平成 18 年 11 月, 北海道, シンポジウム「クリニカル・コクピット: そのコンセプトと運用」演者)
- 25) 第 26 回医療情報学連合大会(平成 18 年 11 月, 北海道, ランチョンセミナー「電子カルテ時代の PACS 活用事例」座長)
- 26) 岐阜県医師会: 産業医研修会(平成 18 年 11 月, 岐阜, 講演「職域における健診データの重要性-生活習慣病予防の観点から-」演者)
- 27) 平成 18 年度「セカンドレベル」(平成 18 年 11 月, 兵庫, 講演「看護管理を支援する情報技術」演者)
- 28) 岐大・十六産学連携医療 IT セミナー(平成 18 年 12 月, 岐阜, 講演「センサーネットワーク技術」演者)
- 29) 国保事業推進トップセミナー(平成 19 年 1 月, 岐阜, 特別講演「健診の義務化に関わる健診データ等の運用・管理について」演者)
- 30) 岐阜大学病院看護部講演会(平成 19 年 1 月, 岐阜, 講演「病院を取り巻く医療情勢」演者)
- 31) 平成 18 年度経済産業省「医療経営人材育成事業」医療専門職のための医療マネジメントセミナー(平成 19 年 2 月, 岐阜, 講演「病院 IT 化と医療の変化(オペレーション管理)」演者)
- 32) 医事関係訴訟の運営をめぐる懇談会(平成 19 年 2 月, 大阪, 講演「岐阜大学病院の電子カルテシステムと情報セキュリティ, 証拠保全について」演者)
- 33) 平成 18 年度岐阜県医師会総合医療情報ネットワーク・岐阜地区総合医療情報ネットワーク合同総会(平成 19 年 2 月, 岐阜, 「医療保険制度と医療サービス, IT 活用の最新事例について-特に日米英を比較する」演者)
- 34) (社)日本医療経営コンサルタント協会平成 18 年度継続研修(2 月/集中)(平成 19 年 2 月, 愛知, 講演「医療機関における ICT 化の現状と今後の役割-医療マネジメントを支える ICT-」演者)
- 35) 法人職員対象講演会(平成 19 年 2 月, 愛知, 講演「電子カルテの導入とその効果」演者)
- 36) 平成 18 年度経済産業省「医療経営人材育成事業」医療マネジメント最新事情講演会(平成 19 年 3 月, 岐阜, 講演「医療経営と IT (医療情報学者の立場から)」演者)
- 37) 医療経営最新事情講演会(平成 19 年 3 月, 大阪, 講演「医療経営と IT」演者)
- 38) 山田赤十字病院特別講演会(平成 19 年 6 月, 三重, 特別講演「電子カルテ, 画像検査のフィルムレス運用の実際-導入の計画から運用までのプロセスを中心に-」演者)
- 39) 第 23 回全国放射線技師総合学術大会特別プログラム「医療経営における放射線技師の役割」(平成 19 年 6 月, 石川, 講演「医療の質向上へどのように貢献するか」演者)
- 40) 第 11 回日本医療情報学会春季学術大会(シンポジウム 2007)「データウェアハウスとデータ利活用」(平成 19 年 6 月, 大阪, シンポジウム「データウェアハウスと Information-based Management」座長・演者)
- 41) 岐大・十六産学連携医療経営シンポジウム(平成 19 年 6 月, 岐阜, シンポジウム「信頼される病院とは」座長)
- 42) 第 29 回 MR 基礎講座(平成 19 年 8 月, 東京, 講演「肝の MRI-最近の話題を含めて-」座長)
- 43) 第 17 回医療経営コンサルタント認定講座(平成 19 年 8 月, 東京, 「情報管理」演者)
- 44) 認定看護管理者制度平成 19 年度「セカンドレベル教育課程」(平成 19 年 9 月, 兵庫, 「看護管理を支援する情報技術」演者)

- 45) 第 35 回日本磁気共鳴医学会大会(平成 19 年 9 月, 兵庫, 教育講演「基礎Ⅱ」座長)
- 46) 山田赤十字病院特別講演会(平成 19 年 10 月, 三重, 特別講演「電子カルテ, 画像検査のフィルムレス運用の実際ー導入の計画から運用までのプロセスを中心にー」演者)
- 47) 平成 19 年度日本生体医工学会東海支部学術集会(平成 19 年 10 月, 愛知, 特別講演「振動分光法で非侵襲的に人体の代謝を観る」座長)
- 48) 第 92 回近畿病歴管理セミナー(平成 19 年 10 月, 大阪, 講演「これからの病院情報システムに求められるもの」演者)
- 49) 第 20 回電子情報研究会(日本医学放射線学会)(平成 19 年 10 月, 愛知, シンポジウム「放射線部門の IT 化・システム化」座長)
- 50) 認定登録医業経営コンサルタント上級ビジネスコース(平成 20 年 3 月, 東京, 講演「医療情報管理の基本／情報セキュリティ」演者)
- 51) 医療経営人材育成基礎研修コース(平成 20 年 3 月, 大阪, 講演「医療機関の IT 戦略」演者)
- 52) 認定登録医業経営コンサルタント上級ビジネスコース(平成 20 年 3 月, 東京, 講演「情報コンサルティング／院内情報化の進め方」演者)
- 53) Cyberrad2008(日本ラジオロジー協会)(平成 20 年 4 月, 神奈川, 講演「放射線部門を取り巻く院内の患者動線」演者)
- 54) 第 9 回病院の経営を考える会(平成 20 年 6 月, 大阪, 講演「医療機関における ICT 戦略とマネジメントの調和を求めて」演者)
- 55) 第 7 回国際バイオフォーラム(国際バイオ 2008)(平成 20 年 7 月, 東京, 講演「生涯に亘る健康情報の管理と安全な受診療を支援するシステム」演者)
- 56) 認定登録医業経営コンサルタント協会 平成 20 年度集中研修(平成 20 年 7 月, 東京, 講演「医療機関における IT 戦略とデータの有効活用」演者)
- 57) IBM 製薬業天城セミナー(平成 20 年 7 月, 静岡, 講演「医療 IT を取り巻く環境と今後のシステムの在り方」演者)
- 58) 平成 20 年度全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会研究集会(平成 20 年 7 月, 岐阜, 基調講演「学生支援における IT 化の将来について」演者)
- 59) 平成 20 年度第 18 回医業経営コンサルタント指定講座(平成 20 年 8 月, 東京, 講演「医業経営管理論：情報管理」演者)
- 60) 平成 20 年度第 19 回医業経営コンサルタント指定講座(平成 20 年 8 月, 大阪, 講演「医業経営管理論：情報管理」演者)
- 61) 平成 20 年度認定看護管理者制度「セカンドレベル教育課程」(平成 20 年 8 月, 兵庫, 「看護管理を支援する情報技術」演者)
- 62) 情報化認定コンサルタント指定講座(平成 20 年 9 月, 東京, 講演「情報化資源調達支援 ベンダ選定手順提案」演者)
- 63) 情報化認定コンサルタント指定講座(平成 20 年 9 月, 東京, 講演「情報化運用支援 意思決定活用支援」演者)
- 64) 第 36 回日本磁気共鳴医学会大会(平成 20 年 9 月, 旭川, 教育講演 I 基礎①「イメージング」座長)
- 65) 第 36 回日本磁気共鳴医学会大会(平成 20 年 9 月, 旭川, 教育講演Ⅳ基礎②「スペクトロスコーピー」座長)
- 66) 情報化認定コンサルタント指定講座(平成 20 年 10 月, 東京, 講演「情報化資源調達支援 ベンダ選定手順提案」演者)
- 67) 情報化認定コンサルタント指定講座(平成 20 年 10 月, 東京, 講演「情報化導入支援 導入準備作業, テスト・リハーサル支援, 導入システムの品質評価」演者)
- 68) 日本遠隔医療学会学術大会(平成 20 年 10 月, 岐阜, 特別講演「かがわ遠隔医療ネットワークから日本版 EHR への発展ー医療従事者中心の電子カルテネットワークから住民中心の生涯健康カルテへー」座長)
- 69) 日本遠隔医療学会学術大会(平成 20 年 10 月, 岐阜, 企画シンポジウム「画像遠隔医療」座長)
- 70) 日本遠隔医療学会学術大会(平成 20 年 10 月, 岐阜, 「画像遠隔医療への期待」演者)
- 71) 情報化認定コンサルタント指定講座(平成 20 年 10 月, 岐阜, 講演「情報化運用支援 意思決定活用支援」演者)
- 72) 数理システムユーザーコンファレンス 2008(平成 20 年 11 月, 東京, 講演「医療分野での意思決定を支えるデータサイエンスーVMS の活用を中心にー」演者)
- 73) 医療経営人材育成基礎研修コース(平成 20 年 11 月, 大阪, 講演「医療機関の IT 戦略」演者)

- 74) 第 28 回医療情報学連合大会(平成 20 年 11 月, 神奈川, 「医療データベース・データマイニング」座長)
- 75) The 2008 Annual Conference of the Japanese Society for Bioinformatics(平成 20 年 12 月, 大阪, 招待講演「ICT Revolution and Paradigm Shift In Hospital」演者)

松島秀 :

- 1) 第 54 回北海道 MRI 画像研究会(平成 18 年 11 月, 北海道, 講演「分子構造変化と MRI ~ Tissue imaging から Cellular imaging へ ~」演者)
- 2) 平成 19 年度みえメディカル研究会「医用工学研究会」第 3 回研究・講演会(平成 19 年 11 月, 三重, 「最新の医療画像診断装置の基礎と応用」演者)
- 3) 第 15 回ラボ・フォーラム(愛知県職員臨床検査技師会)(平成 20 年 1 月, 愛知, 「MRI の基礎について」演者)

内山良一 :

- 1) 医用画像情報学会第 151 回大会(平成 20 年 5 月, 岐阜, 受賞講演「ベクトル集中度フィルタを用いた MRA 画像における脳動脈瘤の検出法」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 松島秀 : 第 66 回日本医学放射線学会 Gold Medal 賞(平成 19 年度)
- 2) 高林健登, 猪口明博, 鷺尾隆, 紀ノ定保臣 : 情報処理学会 DBS 研究会「データベースと Web 情報システムに関するシンポジウム(DBWeb2007)」, 学生奨励賞(平成 19 年度)
- 3) 内山良一 : 第 64 回日本放射線技術学会 CyPos 銅賞(平成 20 年度)
- 4) 内山良一 : 医用画像情報学会金森奨励賞(平成 20 年度)
- 5) 清水秀年, 宮村廣樹, 松島秀, 村上政隆, 恵良聖一, 内山良一, 紀ノ定保臣 : 生体医工学シンポジウム 2008 ベストリサーチアワード賞(平成 20 年度)

9. 社会活動

紀ノ定保臣 :

- 1) 岐阜県医師会勤務医部会 IT 委員会委員長(~現在)
- 2) 岐阜県医師会情報システム委員会委員(~現在)
- 3) 全国健康保険協会岐阜支部評議会委員(~現在)

10. 報告書

- 1) 山本眞由美, 紀ノ定保臣, 鈴木康之, 高塚直能 : 経済産業省平成 17 年度「医療経営人材育成事業運営に関わる教育プログラム」実績報告書「医療経営人材育成教育プログラム開発プロジェクト高度医療教育コンソーシアム(代表・大阪大学)」補助教材(ケース) : 医療情報管理システムと診療モデル-糖尿病- : 141-176(2006 年 3 月)
- 2) 紀ノ定保臣 : 健診の義務化に関わる健診データ等の運用・管理について, 国保事業推進トップセミナー講演記録 : 32-40(2007 年 1 月)
- 3) 紀ノ定保臣 : ネットワークセンシング技術を応用した病院運営手法について, 平成 18 年度「ネットワークセンシングシステム技術調査研究報告書」 : 74-77(2007 年 3 月)
- 4) 高塚直能, 川口順敬, 高橋孝夫, 紀ノ定保臣, 山本眞由美 : 急性期病院経営における病床マネジメント -特定機能病院消化器外科のケース-, 平成 18 年度経済産業省「医療経営人材育成事業」報告書 高度医療教育コンソーシアム(代表団体・大阪大学)(2007 年 3 月)
- 5) 長瀬清, 高塚直能, 紀ノ定保臣, 山本眞由美 : 急性期病院経営における手術部マネジメント -特定機能病院手術室のケース-, 経済産業省平成 19 年度サービス産業人材育成事業(病院業務マネジメントに関するケーススタディ教育開発プロジェクト)報告書(2008 年 3 月)

11. 報道

- 1) 紀ノ定保臣 : IT 活用による医療改革の最前線を追う : CIO(2006 年 10 月号)
- 2) 紀ノ定保臣 : エキスパートインタビュー「全体最適を徹底させた一元管理と共有で“データ”から価値を生み出す運用を目指す」 : MELTOPIA(2006 年 11 月号)
- 3) 紀ノ定保臣 : 戦略的なマネジメントと IT 化の推進が不可欠 : 日経コンピュータ(2006 年 11 月 27 日)

号)

- 4) 紀ノ定保臣：センサーネットワーク技術：岐阜新聞(2006年12月8日)
- 5) 紀ノ定保臣：肝臓がん 肝硬変 色変化で予兆発見，岐阜大研究グループ MRI 新システム開発：読売新聞(2007年5月1日)
- 6) 紀ノ定保臣：「選ばれる病院とは」，十六銀行・岐阜大学主催「医療経営シンポジウム」：岐阜新聞(2007年7月1日)
- 7) 紀ノ定保臣：医療のIT化を前進させる新資格制度が今週始動：月刊ジャーマック Vol.9 No.9 11-14(2008年9月1日)
- 8) 紀ノ定保臣：病院IT化で医療の質と収益アップを求める：ITOKI Healthcare Facilities, 8-9(2008年12月10日)

12. 自己評価

評価

平成19年度からの大学院連合創薬医療情報研究科の立ち上げや大学院生の確保もあり、全体的には満足できる成果を上げることができたと考えている。また、研究の中心を従前の医療情報システムの開発から統合バイオバンクシステムの開発と大規模データの分析にシフトし、このような成果で幾つかの受賞を得ることができた。

この3年間は今後の主流になるとされるライフサイエンス分野でのバイオ・インフォマティクスに研究の軸足をシフトすることを目標として研究環境の整備を行ってきた。その目標は十分に達成でき、今後の活発な研究に必要な環境は整ったと考えている。

現状の問題点及びその対応策

欧文の原著論文が少ないことが現状の問題点である。その対策として、今後は統合バイオバンクシステムに蓄積されたデータの分析成果を積極的に原著論文化することを目標に研究活動をさらに活発化したい。また、研究分野をバイオ・インフォマティクスに留まらず、その応用分野である創薬・医薬品の適正使用や有害事象分析、代謝パスの分析などにも拡大し、論文化できる成果を増やしたいと計画している。

今後の展望

医療情報学分野における今後の研究対象は大規模データの分析が中心になる。診療データや健康データ、ゲノムデータ、医薬品情報や生体内の代謝情報、その他の関連するライフサイエンスデータ等を統合化し、統合バイオバンクとして再構築する。このようにして得られた大規模データを相互に関連するデータとして捉え、その関連構造とダイナミクスを解析することが重要である。

したがって、①観測された検査値間での関係ネットワーク図の作成、②関係ネットワーク上でのプロセス分析、③関係ネットワーク上のダイナミクス分析、④関係ネットワーク上の構造抽出、⑤関係ネットワークデータに基づいた疾病等の早期発見技術への応用、等を主眼にして活発な研究活動を展開したいと考えている。また、このような成果を教育に活かすことを目指す。

(2) 総合病態内科学分野

1. 研究の概要

これまでと同様、以下のテーマを中心に研究を行っている。

1) インスリン作用機構に関する研究

2型糖尿病、高血圧症、脂質異常症、肥満、NASHを頻繁に合併するメタボリックシンドロームは生活習慣病の大部分を占め、プライマリ・ケアでの common disease である。これらの病態にはインスリン抵抗性が強く関与しているため、インスリン抵抗性を臨床的、基礎的に解明するための研究は極めて重要である。ヒトを対象とした臨床研究だけでなく、ラットやラット脂肪細胞を使用した基礎的研究も行っている。インスリン作用機構や、dehydroepiandrosterone (DHEA) によるインスリン感受性改善機構を、マイクロアレイ・免疫組織化学・リアルタイム PCR などを使ってその関与因子を探ることを実践している。また、他のインスリン感受性改善因子であるアディポネクチン、レプチン、DHEA や AMP-kinase などとの関連も検討している。

2) 生活習慣病における血小板凝集と血漿レプチン濃度との関連

肥満を主徴とする患者は血漿レプチン濃度が高いが、レプチン抵抗性があると考えられている。一方、血小板にレプチン受容体が発現しており、肥満を呈する患者の血管合併症との関連の解明が必要である。

3) 長寿に関する臨床疫学的研究

生活習慣（食事、運動、喫煙、睡眠など）や動脈硬化に関連すると考えられる血清マーカーを、長寿地区と非長寿地区の住民で調査し比較する疫学研究を、イセツ株式会社、森永乳業株式会社、アピ株式会社との共同で2000年から高山市で毎年行っている。この研究から、長寿に結びつく生活習慣が何であるかを明らかにすることが期待される。さらに、それらの因子を改善させる介入研究を行っており、健康寿命の延長を目指している。

4) 動脈硬化・メタボリックシンドロームに関する測定機器開発研究

工学部システム工学科の野方文雄教授との知的クラスター創生事業での共同研究で、2004年から取り組んでいる。これまでに、頸動脈エコーから動脈のコンプライアンスを短時間に測定する機器を開発した。現在、血管内皮機能測定装置と腹部内臓脂肪測定装置の開発を株式会社パラマ・テックと共同開発中である。

5) 各種生活習慣病治療薬のミトコンドリア毒性に関する研究

既に米国糖尿病学会でも明らかにした様に肝ミトコンドリア障害を troglitazone が引き起こしたミトコンドリア毒性に関する機構を明らかにした。更に各種抗高脂血漿薬剤や抗糖尿病薬剤のミトコンドリア毒性スクリーニング検査の開発を検討している。

2. 名簿

教授：	石塚達夫	Tatsuo Ishizuka
准教授：	森田浩之	Hiroyuki Morita
講師：	梶田和男	Kazuo Kajita
医員：	宮内ルミ子	Rumiko Miyauchi
医員：	池田貴英	Takahide Ikeda
医員：	森 一郎	Ichiro Mori
医員：	藤岡 圭	Kei Fujioka
医員：	岡田英之	Hideyuki Okada
医員：	藤掛貴敏	Takatoshi Fujikake

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 石塚達夫. 消化器：専門医部会編. 生涯教育のためのセルフトレーニング問題と解説, 東京：社団法人日本内科学会；2008年：4-12.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 石塚達夫. Doctor's view Vol. 5 生活習慣病予防に関して, 岐阜の国保 2006年；281巻：9.
- 2) 石塚達夫. Doctor's view Vol. 6 生活習慣病予防に関して—21世紀の糖尿病予防—, 岐阜の国保 2006年；282巻：11.

- 3) 石塚達夫. Doctor's view Vol. 7 生活習慣病予防に関してー生活習慣病とプライマリケアー, 岐阜の国保 2006年; 283巻: 1.
- 4) 梶田和男, 石塚達夫. 糖尿病・内分泌疾患による突然死, 法医病理 2006年; 12巻: 17-21.
- 5) 石塚達夫. Doctor's view Vol. 8 生活習慣病予防に関してー糖尿病, 高血圧, 高脂血症診療ガイドラインー, 岐阜の国保 2007年; 284巻: 14-15.
- 6) 石塚達夫. Doctor's view Vol. 9 生活習慣病予防に関してーメタボリックシンドロームと脂肪肝ー, 岐阜の国保 2007年; 285巻: 16-17.
- 7) 石塚達夫. Doctor's view Vol. 10 生活習慣病予防に関してー世界糖尿病デーー, 岐阜の国保 2007年; 286巻: 16-17.
- 8) 石塚達夫. Doctor's view Vol. 11 生活習慣病予防に関してー高血圧治療ガイドラインー, 岐阜の国保 2007年; 287巻: 10-11.
- 9) 石塚達夫. 生活習慣病とは何か 特集特定健診時代の生活習慣病対策, JIM 2008年; 18巻: 14-19.
- 10) 石塚達夫. Doctor's view Vol. 12 生活習慣病予防に関してー関節リウマチと生活習慣病ー, 岐阜の国保 2008年; 288巻: 16-17.
- 11) 石塚達夫. インスリン受容体抗体 新時代の糖尿病学(2)ー病因・診断・治療研究の進歩ー, 日本臨床 2008年; 66巻(増刊4): 310-313.
- 12) 石塚達夫. 日糖協・国際委員会だより(2) 第43回 EASD(欧州糖尿病会議)に参加して, さかえ4月号; 2008年: 64.
- 13) 森田浩之. 医学生による訪問看護体験実習, 医学のあゆみ 2008年; 224巻: 163-165.
- 14) 石塚達夫. 薬物指導における諸問題 糖尿病の療養指導: 糖尿病学の進歩 42回 2008年: 86-91.
- 15) 石塚達夫. 総合内科専門医とサブスペシャリティ, 日本内科学会雑誌 2008年; 97巻: 222-226.
- 16) 石塚達夫. 糖尿病へ検査と指標からアプローチ インスリン抵抗性の簡易診断法と限界, 糖尿病 UP・DATE 賢島セミナー24 2008年: 44-53.
- 17) 石塚達夫. 治療中の2型糖尿病患者はうつ症状を発現しやすいーうつ症状と糖尿病の双方向関連についての検討ー, MMJ 2008年; 4巻: 840-841.
- 18) 石塚達夫. プライマリケアと生活習慣病から地域医療・遠隔医療への展望, 日本遠隔医療学会雑誌 2008年; 4巻: 172-174.

総説 (欧文)

- 1) Ishizuka T. Adrenal insufficiency complicated with antiphospholipid syndrome. Intern Med. 2006;45:1077-1078.

原著 (和文)

- 1) 福沢嘉孝, 柴田敦子, 鶴澤正仁, 各務伸一, 尾関教生, 森田浩之, 内木隆文, 白坂和信, 小川陽子, 服部泰輔, 安田一朗, 石塚達夫, 原瀬一郎, 梶田和男, 武田則之. 全身倦怠感を主訴に著明な肝機能障害を呈した12歳男児例, 内科専門医会誌 2006年; 18巻: 255-268.
- 2) 丸山文夫, 石塚達夫, 栗本秀彦, 三島信彦, 服部和樹, 三澤健太郎, 宮崎仁. 認定内科専門医による教育セミナーまとめーいまこそプロブレムリストを見直そうー, 内科専門医会誌 2006年; 18巻: 269-296.
- 3) 浅野昭道, 森田浩之, 北谷真子, 八木邦公, 鈴木薫, 山秋直人, 武田義勇, 小泉順二, 松井希代子, 稲垣美智子. 高血糖のため繰り返し教育入院を要した2型糖尿病, 糖尿病の療養指導: 糖尿病学の進歩 40回 2006年: 213-219.
- 4) 林美佳, 岩木博美, 森田浩之, 湯上英臣, 宇野嘉弘, 梶田和男, 松本雅美, 池田貴英, 森一郎, 松原健治, 和田祐爾, 石塚達夫. 在宅健康管理システムによる降圧効果ー健康診断での非利用者との比較研究ー, 日本遠隔医療学会雑誌 2006年; 2巻: 222-223.
- 5) 岩木博美, 林美佳, 森田浩之, 湯上英臣, 宇野嘉弘, 梶田和男, 松本雅美, 池田貴英, 森一郎, 松原健治, 和田祐爾, 石塚達夫. 在宅健康管理システムの有用性ー心電図による不整脈の月別・年代別変動ー, 日本遠隔医療学会雑誌 2006年; 2巻: 224-225.
- 6) 森田浩之, 宇野嘉弘, 石塚達夫, 保住功, 犬塚貴. 医学生による訪問看護体験実習の評価, 医学教育 2006年; 37巻: 311-315.
- 7) 森田浩之, 水野智子, 梶田和男, 宇野嘉弘, 池田貴英, 森一郎, 松原健治, 松本雅美, 長井孝太郎, 石塚達夫. 両側に副腎皮質腺腫が見られた原発性アルドステロン症の1例ー右アルドステロン産生腺腫と左非機能性腺腫ー, 日本内分泌学会雑誌 第16回臨床内分泌代謝 Update Proceeding 2006年; 82巻: 61-63.
- 8) 野方文雄, 宇野嘉弘, 森田浩之, 石塚達夫, 河村洋子, 横田康成, 下中智, 田中靖哲. 健康高齢者検査システムの開発, 日本コンピュータ外科学会雑誌 2006年; 8巻: 134-135.
- 9) 松原健治, 森一郎, 池田貴英, 松本雅美, 杉山千世, 梶田和男, 宇野嘉弘, 森田浩之, 石塚達夫. 長寿に影響を与える因子の検討 国府・美山地区比較研究, 岐阜県内科医会雑誌 2007年; 21巻: 19-21.
- 10) 石塚達夫, 湊口信也, 福沢嘉孝, 勝木顕, 宇野嘉弘. メタボリックシンドロームー専門領域からのメッセージと討論ー日本内科学会専門医部会支部セミナーから, 日本内科学会雑誌 2007年; 96巻: 174-180.
- 11) 森田浩之, 林美佳, 宇野嘉弘, 梶田和男, 藤岡圭, 森一郎, 池田貴英, 松原健治, 和田祐爾, 岩木博美, 湯上英臣, 石塚達夫. 在宅健康管理システム利用による生活習慣病関連指標への効果ー健康診断での非利用者との比較研究ー, 日本遠隔医療学会雑誌 2007年; 3巻: 229-230.
- 12) 高木健裕, 森田浩之, 尾邊利英, 村山正憲, 橋本直純, 石塚達夫. 2年間の経過で変化を示した肺結節陰

- 影の1例－日本内科学会専門医部会支部セミナーから－, 日本内科学会雑誌 2008年;97巻:849-856.
- 13) 石塚達夫, 福沢嘉孝, 吉富 純, 杉浦 勇, 坂野章吾, 森田浩之. 発熱疾患への各分野からのアプローチ－第3回東海支部内科専門医部会教育セミナーから－, 日本内科学会雑誌 2008年;97巻:1363-1370.
- 14) 池田貴英, 森田浩之, 宇野嘉弘, 梶田和男, 宮内ルミ子, 森一郎, 藤岡圭, 岡田英之, 藤掛貴敏, 和田祐爾, 石塚達夫, 大塚尊. 遠隔医療のニーズとターゲット－山間地域での在宅健康管理システム契約者へのアンケート調査－, 日本遠隔医療学会雑誌 2008年;4巻:306-307.
- 15) 村山正憲, 夏目佳幸, 岡田美帆, 鈴木俊成, 穂積宏尚, 森一郎, 吉富淳, 森田浩之, 兼松孝好. 第4回東海支部教育セミナー プロブレムで考える症例検討会, 日本内科学会雑誌 2008年;97巻:2811-2819.

原著 (欧文)

- 1) Takahashi M, Minatoguchi S, Nishigaki K, Kawasaki M, Arai M, Uno Y, Fujiwara H. Long-term and strict blood pressure lowering by imidapril reverses left ventricular hypertrophy in patients with essential hypertension: an evaluation using a novel indicator of burden on the left ventricle. *Hypertens Res.* 2006;29:89-94. IF 2.951
- 2) Lu C, Arai M, Misao Y, Chen X, Wang N, Onogi H, Kobayashi H, Uno Y, Takemura G, Minatoguchi S, Fujiwara T, Fujiwara H. Autologous bone marrow cell transplantation improves left ventricular function in rabbit hearts with cardiomyopathy via myocardial regeneration-unrelated mechanisms. *Heart Vessels.* 2006;21:180-187. IF 1.043
- 3) Suzuki K, Nagashima K, Arai M, Uno Y, Misao Y, Takemura G, Nishigaki K, Minatoguchi S, Watanabe S, Tei C, Fujiwara H. Effect of granulocyte colony-stimulating factor treatment at a low dose but for a long duration in patients with coronary heart disease. *Circ J.* 2006;70:430-437. IF 2.373
- 4) Arai M, Misao Y, Nagai H, Kawasaki M, Nagashima K, Suzuki K, Tsuchiya K, Otsuka S, Uno Y, Takemura G, Nishigaki K, Minatoguchi S, Fujiwara H. Granulocyte colony-stimulating factor: a noninvasive regeneration therapy for treating atherosclerotic peripheral artery disease. *Circ J.* 2006;70:1093-1098. IF 2.373
- 5) Isomura Y, Mune T, Morita H, Suwa T, Takada N, Yamamoto Y, Takeda J. Physiologic roles of 11 β -hydroxydehydrogenase type 2 in kidney. *Metabolism.* 2006;55:1352-1357. IF 2.647
- 6) Onogi H, Minatoguchi S, Chen XH, Bao N, Kobayashi H, Misao Y, Yasuda S, Yamaki T, Maruyama R, Uno Y, Arai M, Takemura G, Fujiwara H. Edaravone reduces myocardial infarct size and improves cardiac function and remodelling in rabbits. *Clin Exp Pharmacol Physiol.* 2006;33:1035-1041. IF 2.038
- 7) Yamada Y, Sekihara H, Omura M, Yanase T, Takayanagi R, Mune T, Yasuda K, Ishizuka T, Ueshiba H, Miyachi Y, Iwasaki T, Nakajima A, Nawata H. Changes in serum sex hormone profiles after short-term low-dose administration of dehydroepiandrosterone (DHEA) to young and elderly persons. *Endocr J.* 2007;54:153-162. IF 1.572
- 8) Sugiyama C, Ishizawa M, Kajita K, Morita H, Uno Y, Matsubara K, Matsumoto M, Ikeda T, Ishizuka T. Platelet aggregation in obese and diabetic subjects: association with leptin level. *Platelets.* 2007;18:128-134. IF 1.915
- 9) Chen X, Minatoguchi S, Arai M, Wang N, Lu C, Narentuoya B, Uno Y, Misao Y, Takemura G, Fujiwara T, Fujiwara H. Celiprolol, a selective beta1-blocker, reduces the infarct size through production of nitric oxide in a rabbit model of myocardial infarction. *Circ J.* 2007;71:574-579. IF 2.373
- 10) Ishizuka T, Miura A, Kajita K, Matsumoto M, Sugiyama C, Matsubara K, Ikeda T, Mori I, Morita H, Uno Y, Mune T, Kanoh Y, Ishizawa M. Effect of dehydroepiandrosterone on insulin sensitivity in Otsuka Long-Evans Tokushima fatty rats. *Acta Diabetol.* 2007;44:219-226. IF 1.619
- 11) Kajita K, Mune T, Ikeda T, Matsumoto M, Uno Y, Sugiyama C, Matsubara k, Morita H, Takemura M, Seishima M, Takeda J, Ishizuka T. Effect of fasting on PPAR γ and AMPK activity in adipocytes. *Diabetes Res Clin Pract.* 2008;81:144-149. IF 1.823
- 12) Mori I, Ishizuka T, Morita H, Matsumoto M, Uno Y, Kajita K, Ikeda T, Fujioka K, Matsubara K. Comparison of biochemical data, blood pressure and physical activity between longevity and non-longevity districts in Japan. *Circ J.* 2008;72:1680-1684. IF 2.373

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 森田浩之, 研究分担者: 石塚達夫, 宇野嘉弘; 文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)(2): 長寿と生活習慣－岐阜生活習慣調査・介入プロジェクト－; 平成16-19年度; 14,900千円(7,600:4,000:1,900:1,400千円)
- 2) 研究代表者: 野方文雄, 研究分担者: 森田浩之, 宇野嘉弘, 飯田宏樹, 飯田真美, 横田康成, 石塚達夫, 清島満; 知的クラスター創生事業－ロボテック先端医療クラスター－: 医療診断支援システムの開発－動脈硬化解析・診断システム－; 平成17-20年度; 50,409千円(9,500:20,000:7,500:13,409千円)
- 3) 研究代表者: 酒巻哲夫, 研究分担者: 森田浩之, 岡田宏基, 長谷川高志, 本間聡起, 吉田晃敏, 辻

正次, 原量宏; 在宅医療への遠隔医療実用実施手順の策定; 平成 20 年度; 500 千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

- 1) 石塚達夫, 森田浩之, 宇野嘉弘, 梶田和男, 松原健治, 松本雅美, 池田貴英, 森一郎: 岐阜県内の長寿地域と非長寿地域での, 身体および生活習慣(食事, 運動等)の疫学的調査による原因の解明; 平成 18 年度; 2,000 千円: イセツト(株)
- 2) 石塚達夫, 森田浩之, 宇野嘉弘, 梶田和男, 池田貴英, 森一郎, 藤岡圭, 宮内ルミ子: 流動食長期摂取によるメタボリック症候群の予防・改善効果; 平成 19 年度; 2,970 千円: 森永乳業(株)
- 3) 石塚達夫, 森田浩之: 繊維リッチ機能性食品を使用したメタボ対策効果の検証; 平成 19 年度; 2,000 千円: イセツト(株)
- 4) 石塚達夫, 森田浩之, 梶田和男, 藤岡圭, 宮内ルミ子, 池田貴英, 森一郎, 岡田英之, 藤掛貴敏: ローヤルゼリー含有飲料の長期摂取による効能・効果の検証; 平成 20 年度; 2,000 千円: イセツト(株)
- 5) 石塚達夫, 梶田和男: ローヤルゼリー摂取によるメタボリック症候群の予防・改善効果; 平成 20 年度; 2,970 千円: アビ(株)

5. 発明・特許出願状況

- 1) 野方文雄, 森田浩之, 宇野嘉弘: 補正装置(発明); 平成 19 年(特願 2006-003862)
- 2) 飯田宏樹, 飯田真美, 森田浩之, 宇野嘉弘, 横田康成, 野方文雄: 血管内皮機能測定装置(発明); 平成 20 年(特願 2007-138493)
- 3) 野方文雄, 横田康成, 河村洋子, 森田浩之, 宇野嘉弘: 生体動脈評価方法, 及び生体動脈評価装置(発明); 平成 20 年(特願 2008-015386)

6. 学会活動

1) 学会役員

石塚達夫:

- 1) 日本内科学会評議員(～現在)
- 2) 日本内科学会東海支部評議員(～現在)
- 3) 日本内科学会認定医・専門医試験委員(～平成 20 年 9 月)
- 4) 日本内科学会専門医部会東海支部長(～現在)
- 5) 日本内科学会専門医部会役員(～現在)
- 6) 日本糖尿病学会評議員(～現在)
- 7) 日本糖尿病学会療養指導士認定機構認定委員(～現在)
- 8) 日本糖尿病学会糖尿病用語集編集委員長(～現在)
- 9) 日本内分泌学会代議員(～現在)
- 10) 日本内分泌学会東海支部監事(平成 19 年 4 月～現在)
- 11) 日本内分泌学会専門医試験委員(～平成 20 年 9 月)
- 12) 日本病態栄養学会評議員(～現在)
- 13) 日本遠隔医療学会理事(平成 19 年 4 月～現在)

宇野嘉弘:

- 1) 日本内科学会東海支部評議員(～現在)

森田浩之:

- 1) 日本内科学会東海支部評議員(～現在)
- 2) 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医試験問題作成委員会世話人(平成 20 年 10 月～現在)
- 3) 日本糖尿病学会評議員(平成 20 年 4 月～現在)
- 4) 日本糖尿病学会糖尿病用語集編集委員(平成 20 年 4 月～現在)
- 5) 日本内分泌学会代議員(～現在)
- 6) 日本ステロイドホルモン学会評議員(～現在)

7) 日本病態栄養学会評議員(～現在)

梶田和男：

- 1) 日本内科学会東海支部評議員(平成 19 年 4 月～現在)
- 2) 日本内分泌学会代議員(～現在)
- 3) 日本病態栄養学会評議員(平成 20 年 4 月～現在)

2) 学会開催

石塚達夫：

- 1) 第 1 回東海支部専門医部会教育セミナー(2006 年 6 月, 名古屋)
- 2) 第 2 回東海支部専門医部会教育セミナー(2007 年 2 月, 津)
- 3) 第 3 回東海支部専門医部会教育セミナー(2007 年 10 月, 名古屋)
- 4) 第 4 回東海支部専門医部会教育セミナー(2008 年 2 月, 名古屋)
- 5) 第 5 回東海支部専門医部会教育セミナー(2008 年 6 月, 浜松)
- 6) 平成 20 年度日本遠隔医療学会学術大会(2008 年 10 月, 岐阜)

3) 学術雑誌

森田浩之：

- 1) 日本遠隔医療学会雑誌；編集委員(平成 19 年 4 月～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

石塚達夫：

- 1) 第 1 回東海支部専門医部会教育セミナー(2006 年 10 月, 名古屋, シンポジウム「メタボリック症候群 – 専門領域からのメッセージと討論 –」座長)
- 2) 第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会(2007 年 5 月, 仙台, 教育講演「神経障害の診断と治療」座長)
- 3) 第 24 回糖尿病 Up・Date 賢島セミナー(2007 年 8 月, 志摩, 招待講演「インリン抵抗性の簡易診断法と限界」演者)
- 4) 第 3 回東海支部専門医部会教育セミナー(2007 年 10 月, 名古屋, シンポジウム「発熱疾患への各分野からのアプローチ」座長)
- 5) 第 5 回東海支部専門医部会教育セミナー(2008 年 6 月, 名古屋, シンポジウム「プライマリケアにおける疼痛疾患の診断」座長)
- 6) 第 25 回糖尿病 Up・Date 賢島セミナー(2008 年 8 月, 志摩, 招待講演「2 型糖尿病を伴った脂肪肝」演者)
- 7) 2nd World Conference on Magic Bullets Celebrating the 100th Anniversary of the Nobel Prize Award to Paul Ehrlich(2008.10, Nurnberg, Special Lecture “Dehydroepiandrosterone reduced adiposity and insulin resistance”)

森田浩之：

- 1) 第 2 回東海支部専門医部会教育セミナー(2007 年 2 月, 津, 症例検討会「検診発見で 2 年の経過中に陰影変化を示した 59 歳男性例」座長)
- 2) 2007 年度日本遠隔医療学会学術集会(2007 年 10 月, 岡山, 企画シンポジウム「遠隔医療のビジネスモデル テレヘルスケアのビジネスモデル構築に向けて」座長)

宇野嘉弘：

- 1) 平成 20 年度日本遠隔医療学会大会(2008 年 10 月, 岐阜, シンポジウム「地域医療」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 松原健治：第 44 回岐阜県内科医会優秀演題賞(平成 18 年度)
- 2) 宮崎渚：第 205 回日本内科学会東海地方会優秀演題賞(平成 20 年度)
- 3) 水野正巳：第 206 回日本内科学会東海地方会優秀演題賞(平成 20 年度)
- 4) 池田貴英：平成 20 年度日本遠隔医療学会優秀論文賞(平成 20 年度)
- 5) 森一郎：第 48 回岐阜県内科医会優秀演題賞(平成 20 年度)

9. 社会活動

石塚達夫：

- 1) 日本糖尿病協会国際委員(～現在)

10. 報告書

- 1) 森田浩之：音声カオス解析によるストレス診断と痴呆スクリーニング：(財)東海産業技術振興財団第17回助成研究完了報告書：TFT ニュース 49：37-43(2006年3月)
- 2) 森田浩之：長寿と生活習慣病-岐阜生活習慣調査・介入プロジェクト-：平成16年～平成19年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書：1-73(2008年5月)
- 3) 森田浩之：インピーダンス計測で生体機能を診断！血管内皮/腹部内臓脂肪：ロボテック先端医療クラスタ技術シーズ集(平成16年度～平成20年度)：29-30(2008年11月)

11. 報道

- 1) 宇野嘉弘，野方文雄：5分で分かる血管年齢 岐阜大が検査システム開発：中日スポーツ(2006年5月31日)
- 2) 森田浩之：中部の医療 メタボリックシンドローム「血液中の医者」を増やせ，読売新聞(2006年12月12日)
- 3) 宇野嘉弘，野方文雄：動脈硬化検査5分に短縮 岐阜大グループ開発：読売新聞(2007年1月15日)
- 4) 森田浩之：研究室から大学は今「健康寿命と生活習慣考える」：岐阜新聞(2007年1月16日)

12. 自己評価

評価

医学部が移転後，講座開設も認められ，研究面での設備や環境面での他講座とのハンディは徐々に解消されてきている。それに伴って，総合内科的な見地から特色のある研究が立ち上がりつつあり，今後はこれをさらに発展させてゆく必要がある。少ない教員員の人数を勘案すると，大学院生の研究指導，国際学会での発表，論文業績に関しては標準レベルであると考えている。しかし，総合病態内科学分野として社会的な認知や独立性を考えると，外部資金獲得(特に科学研究費補助金)や，特色ある論文業績，研究や発明に関する新聞報道はまだ少ない。

現状の問題点及びその対応策

人的余裕が十分でなく，研究立案，研究費申請，データ収集・解析，論文記載など研究に費やす時間がかかり不足しているのが現状である。役割分担を明確化し，仕事の重複が少なくなるように見直し，効率化を計って英語論文数を増やしてゆきたい。人的不足に関しては，日頃の臨床研修や臨床実習に力を入れることによって，総合内科の役割や魅力を十分に認識してもらい，多くの入局者を迎えらるるよう努力してゆきたい。社会的な認知不足に対しては，特に地域医療や臨床疫学について学会での発表や論文化とともに，新聞社への報道依頼も積極的に行ってゆきたい。また，ホームページによる情報提供は有効な手段であるため，是非充実させていきたい。

今後の展望

2006年4月から医局が附属病院1階から医学部本館に医局が移転したことによって，医局の近くに研究室が持てるようになった。今後，特に基礎的な研究の進捗が期待できる。また，臨床の場から生まれる疑問を発端とした総合内科として特徴的な臨床研究を推進してゆきたい。特に岐阜県内の総合内科医のネットワークを形成し，多施設での共同研究を行い，臨床的エビデンスを1つでも発信してゆきたい。

(3) 臨床薬剤学分野

1. 研究の概要

臨床薬剤学分野における研究項目は、1) 医薬品等の定量法の確立に関する研究、2) 薬物体内動態の解析に基づく医薬品適正使用推進に関する研究、3) 医薬品の新規剤型の開発とその臨床応用に関する研究、4) 医療情報システムを活用した医療安全確保に関する研究、5) 抗がん剤に対する耐性発現の細胞内メカニズムの解明に関する研究、6) 抗がん剤による副作用発現メカニズムの解明と有効な治療法の確立に関する研究、などである。例えば、医薬品等の定量に関する研究では、高速液体クロマトグラフィー (HPLC) と蛍光検出器、電気化学検出器、紫外吸光光度計、エレクトロスプレー・タンデムマススペクトロメータやガスクロマトグラフィーなどの測定機器を駆使することにより様々な医薬品や生理活性物質の定量に活用している。また、薬物体内動態の解析に基づく医薬品適正使用推進に関する研究では、救急領域における重症患者での腎機能の指標としてシスタチン C を測定し、その値から糸球体ろ過量の推測式、さらには抗菌薬の血中濃度を推測する式を導くことによって抗菌薬の投与量や投与間隔を決定するといった検討を行っている。新規剤型の開発に関する研究では、岐阜県内の企業との共同研究で制吐剤のデキサメタゾンやプロクロルペラジンを含む口腔内速崩壊超薄型フィルム剤を開発し、これを抗がん剤による悪心・嘔吐の予防として適用するための研究を進めている。医療情報システムを活用した医療安全確保に関する研究では、コンピュータを内蔵した抗がん剤注射薬の混合調製のための安全キャビネットを世界で初めて開発し、抗がん剤の取り間違いや投与量間違いによる医療過誤の防止に役立っている。また、抗がん剤に対する耐性発現に関する研究では、医学部や岐阜薬科大学との共同研究において、大腸がん細胞でのオキサリプラチンに対する耐性に細胞内セラミド代謝酵素のスフィンゴシンキナーゼの過剰発現が関与することを見い出し、セラミドに関連する細胞内シグナルと耐性発現との関連について研究を進めている。

2. 名簿

教授： 伊藤 善規 Yoshinori Itoh

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 大石了三, 伊藤善規. がん化学療法セーフティマニュアル: 吉田由美子編. 東京: じほう; 2007年.
- 2) 安田浩二, 杉山正, 伊藤善規, 片桐義博(分担執筆). 2007年版 実習に行く前の覚える医薬品集—服薬指導に役立つ—: 東京: 廣川書店; 2007年.
- 3) 安田浩二, 伊藤善規(分担執筆). 2008年版 実習に行く前の覚える医薬品集—服薬指導に役立つ—: 東京: 廣川書店; 2008年.
- 4) 大石了三, 池末裕明, 伊藤善規編. がん化学療法ワークシート第3版: 東京: じほう; 2008年.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 杉山正, 片桐義博. 病気と薬の説明ガイド 2006—その他のホルモン様薬, 薬局 2006年; 57巻: 1807—1821.
- 2) 松浦克彦, 杉山正. 後発医薬品の品質比較試験—オザグレルナトリウム注射剤—, Pharm Tech Japan 2006年; 22巻: 1606—1609.
- 3) 杉山正, 松浦克彦, 西村美佐夫, 月岡忠夫. 嚥下困難な患者を対象とした乾燥ゼリー製剤の基礎検討, Pharmstage 2007年; 7巻: 31—34.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 松浦克彦, 林秀樹, 杉山正, 片桐義博. 後発医薬品採用のための品質評価—マレイン酸エナラプリル錠における検討—, 医療薬学 2006年; 32巻: 306—313.
- 2) 丹羽 隆, 後藤千寿, 杉山正, 片桐義博. ICUにおける薬剤師による医薬品情報提供とその評価, 医療薬学 2006年; 32巻: 400—406.
- 3) 中村光浩, 平出耕石, 小森義文, 杉山正, 片桐義博. 電子カルテに対応した TDM システムの開発, TDM 研究 2006年; 23巻: 95—96.
- 4) 中村光浩, 今西義紀, 深和加奈, 平出耕石, 杉山正, 片桐義博. FPIA 法を基準とした全血中シクロスポリン濃度の比較, TDM 研究 2006年; 23巻: 233—237.
- 5) 岡安伸二, 武田 純, 山本眞由美. インスリンの安全管理体制改善を目的とした院内標準書の作成とその評

- 価, プラクティス 2006年; 23巻: 464-468.
- 6) 中村光浩, 松浦克彦, 土屋照雄, 杉山 正. ペーパーレス電子カルテに対応した TDM システムの開発, TDM 研究 2007年, 24巻: 104-112.
 - 7) 深和加奈, 後藤千寿, 松浦克彦, 杉山正. 調剤に関する情報の電子化, 日本病院薬剤師会雑誌 2007年; 43巻: 938-941.
 - 8) 後藤千寿, 安田浩二, 杉山正. 臨床検査データを利用した処方鑑査支援システムの開発とその有用性, 医療薬学 2007年; 33巻: 114-118.
 - 9) 岡安伸二, 中村光浩, 千種康一, 櫻井潔, 杉山正. 新設計クリーンベンチ・安全性キャビネットと注射オーダー情報を利用した注射剤調製鑑査システムの開発, 医療薬学 2007年; 33巻: 191-199.
 - 10) 中村光浩, 深和加奈, 岩田千香, 村岡明美, 間宮礼子, 杉山正. 注射薬抗癌剤調製支援プログラムの開発とその評価, 医薬品情報学 2007年; 8巻: 315-319.
 - 11) 吉岡史郎, 松浦克彦, 杉山正, 伊藤善規. 腎移植前後における処方薬剤の変化に関する調査, 医療薬学 2007年; 33巻: 937-941.
 - 12) 松浦克彦, 飯原大稔, 石原正志, 小森善文, 山内江里子, 後藤千寿, 伊藤善規. がん患者の栄養状態に関する院内調査, 日本病院薬剤師会 2007年; 43巻: 571-574.
 - 13) 西村美佐夫, 杉山正, 松浦克彦, 月岡忠夫, 伊藤善規. 嚥下困難患者への適応を目的とした医薬品の乾燥ゼリー製剤化に関する基礎的検討, 医療薬学 2007年; 33巻: 1007-1012.
 - 14) 末次王卓, 古賀友一郎, 吉田実, 尾上梨沙, 中嶋一恵, 中島和博, 園田正信, 末安正典, 秋吉美代子, 吉川学, 伊藤善規, 大石了三. ISO9001 品質管理システムに基づく薬剤提供に関する顧客満足調査と業務改善, 日本病院薬剤師会雑誌 2007年; 43巻: 1543-1547.
 - 15) 丹羽隆, 杉山正, 岡安伸二, 山内江里子, 西垣美奈子, 松浦克彦, 後藤千寿, 伊藤善規. 電子カルテシステムの一環としての薬剤管理指導支援システムの構築, 医療薬学 2008年; 34巻: 103-111.
 - 16) 飯原大稔, 松浦克彦, 吉村知哲, 平出耕石, 石原正志, 後藤千寿, 伊藤善規. 肺がん患者における Carboplatin 投与量の決定方法と副作用発現に関する retrospective study, 日本病院薬剤師会雑誌 2008年; 44巻: 428-431.
 - 17) 窪田敏夫, 野中敏治, 矢野貴久, 住村智子, 林純, 伊藤善規, 大石了三. 抗 MRSA 薬の適正使用を目指した薬物血中濃度モニタリング実施率向上への取り組み, 日本病院薬剤師会雑誌 2008年; 44巻: 277-280.
 - 18) 岡安伸二, 下田浩欣, 紀ノ定保臣, 武田純, 山本眞由美. インスリンの安全管理に関する電子カルテ機能の有用性と問題点, 肥満と糖尿病 2008年; 7巻(別冊): 28-35.
 - 19) 下田浩欣, 岡安伸二, 紀ノ定保臣, 武田純, 山本眞由美. 電子カルテ情報から分析する大学病院の糖尿病病棟患者の特徴分析の試行～業務を可視化する有用性について～, 肥満と糖尿病 2008年; 7巻(別冊): 89-93.
 - 20) 丹羽隆, 小森善文, 石原正志, 高橋鈴代, 松浦克彦, 後藤千寿, 伊藤善規. リスク評価による調剤過誤防止対策の有効性の検証, 日本病院薬剤師会雑誌 2008年; 44巻: 1487-1490.
 - 21) 吉村知哲, 平出耕石, 飯原大稔, 石原正志, 小森善文, 岡安伸二, 松浦克彦, 安田忠司, 伊藤善規. Paclitaxel 投与患者における投与量・投与スケジュールに基づいた副作用解析, 癌と化学療法 2008年; 35巻: 1721-1726.

原著 (欧文)

- 1) Iihara H, Suzuki T, Kawamura Y, Ohkusu K, Inoue Y, Zhang W, Shah MM, Katagiri Y, Ohashi Y, Ezaki T. Emerging multiple mutations and high-level fluoroquinolone resistance in methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* isolated from ocular infections. *Diagn Microbiol Infect Dis.* 2006;56:297-303. IF 2.448
- 2) Masaki T, Ohkusu K, Hata H, Fujiwara N, Iihara H, Yamada-Noda M, Nhung PH, Hayashi M, Yuko Asano Y, Kawamura Y, Ezaki T. *Mycobacterium kumamotonense* Sp. Nov. recovered from clinical specimen and the first isolation report of *Mycobacterium arupense* in Japan: Novel slowly growing, nonchromogenic clinical isolates related to *Mycobacterium terrae* complex. *Microbiol Immunol.* 2006;50:889-897. IF 1.295
- 3) Yano T, Itoh Y, Matsuo M, Kawashiri T, Egashira N, Oishi R. Involvement of both tumor necrosis factor- α -induced necrosis and p53-mediated caspase-dependent apoptosis in nephrotoxicity of cisplatin. *Apoptosis.* 2007;12:1901-1909. IF 3.043
- 4) Shah MM, Iihara H, Noda M, Xiaosong S, Nhung P H, Ohkusu K, Kawamura Y, Ezaki T. DNAJ gene sequence-based assay for species identification and phylogenetic grouping in the genus *Staphylococcus*. *Int J Syst Evol Microbiol.* 2007;57:25-30. IF 2.384
- 5) Kato Z, Nakamura M, Funato M, Kuwabara H, Kondo N. Accidental etizolam ingestion in a child. *Pediatr Emerg Care.* 2007;23:472-473 IF 0.581
- 6) Suzuki T, Iihara H, Uno T, Hara Y, Ohkusu K, Hata H, Shudo M, Ohashi Y. Suture-related keratitis caused by *Corynebacterium macginleyi*. *J Clin Microbiol.* 2007;45:3833-3836. IF 3.708
- 7) Nhung PH, Shah MM, Ohkusu K, Noda M, Hata H, Sun XS, Iihara H, Goto K, Masaki T, Miyasaka J, Ezaki T. The dnaJ gene as a novel phylogenetic marker for identification of *Vibrio* species. *Syst Appl Microbiol.* 2007;30:309-315. IF 2.514
- 8) Iihara H, Niwa T, Shah MM, Nhung PH, Song SX, Hayashi M, Ohkusa K, Itoh Y, Makino S, Ezaki T. Rapid multiplex immunofluorescent assay to detect antibodies against *Burkholderia pseudomallei* and taxonomically closely related nonfermenters. *Jpn J Infect Dis.* 2007;60:230-234. IF 1.074

- 9) Wakahara T, Shiraki M, Murase K, Fukushima H, Matsuura K, Fukao A, Kinoshita S, Kaifuku N, Arakawa N, Tamura T, Iwasa J, Murakami N, Deguchi T, Moriwaki H. Nutritional screening with Subjective Global Assessment predicts hospital stay in patients with digestive disease. *Nutrition*. 2007;23:639-643. IF 2.104
- 10) Ohmori T, Nakamura M, Tada S, Sugiyama T, Itoh Y, Udagawa Y, Hirano K. A highly sensitive assay for ritodrine in human serum by hydrophilic interaction chromatography-tandem mass spectrometry. *J Chromatogr (B)*. 2008;861:95-100. IF 2.935
- 11) Sobue S, Nemoto S, Murakami M, Ito H, Kimura A, Gao S, Furuhashi A, Takagi A, Kojima T, Nakamura M, Itoh Y, Suzuki M, Banno Y, Nozawa Y, Murate T. Implications of sphingosine kinase 1 expression level for the cellular sphingolipid rheostat: relevance as a marker for daunorubicin sensitivity of leukemia cell. *Int J Hematol*. 2008;87:266-275. IF 1.491
- 12) Aki T, Egashira N, Hama M, Yamauchi Y, Yano T, Itoh Y, Oishi R. Characteristics of gabexate mesilate-induced cell injury in porcine aorta endothelial cells. *J Pharmacol Sci*. 2008;106:415-422. IF 2.408
- 13) Aki T, Egashira N, Yamauchi Y, Hama M, Yano T, Itoh Y, Yamada T, Oishi R. Protective effects of amino acids against gabexate mesilate-induced cell injury in porcine aorta endothelial cells. *J Pharmacol Sci*. 2008;107:238-245. IF 2.408
- 14) Yano T, Itoh Y, Yamada M, Egashira N, Oishi R. Combined treatment with L-carnitine and a pan-caspase inhibitor effectively reverses amiodarone-induced injury in cultured human lung epithelial cells. *Apoptosis*. 2008;13:543-552. IF 3.043
- 15) Matsuura K, Ohmori T, Nakamura M, Itoh Y, Hirano K. A simple and rapid determination of valproic acid in human plasma using a non-porous silica column and liquid chromatography with tandem mass spectrometric detection. *Biomed Chromatogr*. 2008;22:387-393. IF 1.663

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：伊藤善規，研究分担者：大石了三；科学研究補助金基盤研究(C)：シスプラチン腎障害に対する細胞内サイクリック AMP を介する保護作用に関する研究；平成 17-18 年度；3,600 千円(2,500：1,100 千円)
- 2) 研究代表者：大石了三，研究分担者：伊藤善規；科学研究補助金基盤研究(C)：ヨード造影剤による腎障害発現機序の解明と予防策の確立；平成 17-18 年度；3,400 千円(2,100：1,300 千円)
- 3) 研究代表者：深和 加奈；文部科学省科学研究補助金奨励研究：STEC 法による CYP2C9 多型高速検出系の TDM への応用；平成 18 年度；480 千円
- 4) 研究代表者：伊藤善規，研究分担者：大石了三；科学研究補助金基盤研究(C)：薬剤による血管障害の発現機序解明と予防・治療策の確立に関する研究；平成 19-20 年度；3,400 千円(2,100：1,300 千円)
- 5) 研究代表者：大石了三，研究分担者：伊藤善規；科学研究補助金基盤研究(C)：抗菌薬による腎障害発現機序の解明；平成 19-20 年度；3,400 千円(2,100：1,300 千円)
- 6) 研究代表者：飯原 大稔；文部科学省科学研究補助金奨励研究：肺癌患者での Carboplatin 投与量決定における血清シスタチン C の有用性の検討；平成 20 年度；550 千円
- 7) 研究代表者：大森 智史；文部科学省科学研究補助金奨励研究：LC-MS/MS を用いた生体試料直接注入法による薬物ハイスループット分析系の開発；平成 20 年度；550 千円
- 8) 研究代表者：後藤 千寿；文部科学省科学研究補助金奨励研究：パクリタキセルによる末梢神経障害に対する疼痛治療剤ノイロトロピンの臨床研究；平成 20 年度；400 千円

2) 受託研究

- 1) 出口隆：薬剤を含有した可食性フィルムの安定性に関する研究；平成 18 年度；100 千円：(株)ツキオカ
- 2) 出口隆：薬剤を含有した乾燥ゼリー製剤の開発に関する研究；平成 18-19 年度；600 千円(複数年次契約)：(株)ツキオカ
- 3) 伊藤善規：薬剤含有フィルム製剤の開発に関する研究；平成 19 年度；600 千円：ツキオカ (株)
- 4) 伊藤善規：薬剤含有フィルム製剤の開発に関する研究；平成 20 年度；800 千円：ツキオカ (株)

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

- 1) 千種康一, 片桐義博, 杉山正, 中村光浩, 岡安伸二: 安全キャビネット(発明); 平成 18 年(特開 2006-122816)
- 2) 松浦克彦, 杉山正, 片桐義博, 月岡忠夫, 西村美佐男: 内服薬(発明); 平成 18 年(特願 2006-206725)
- 3) 大石了三, 伊藤善規, 江頭伸昭, 藤井郁郎: 抗がん剤による末梢神経障害の予防又は軽減剤(発明); 平成 20 年(特願 2008-65399)

6. 学会活動

1) 学会役員

伊藤 善規:

- 1) 日本薬理学会評議員(~現在)
- 2) 日本医療薬学会評議員(~現在)
- 3) 日本病院薬剤師会代議員(~現在)
- 4) 日本薬学会東海支部会幹事(~現在)

2) 学会開催

伊藤 善規:

- 1) 第 29 回日本医療薬学会医療薬学公開シンポジウム(2007 年 3 月, 岐阜)

3) 学術雑誌

伊藤 善規:

- 1) 日本病院薬剤師会雑誌地域編集委員(~現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

杉山正:

- 1) 第 70 回日本循環器学会総会・学術大会(平成 18 年 3 月, 名古屋 コメディカルセッションシンポジウム「循環器領域の薬物療法における病院と調剤薬局との連携」座長)
- 2) 第 69 回九州山口薬学大会(平成 18 年 9 月, 鹿児島, ランチョンセミナー「後発医薬品における品質の重要性」演者)
- 3) 東京都小平地区薬剤師会研修会(平成 18 年, 東京, 「先発医薬品と後発医薬品の薬剤学的差異について」演者)

後藤千寿:

- 1) 第 28 回 POS 医療学会大会(平成 18 年 3 月, 東京, シンポジウム「電子カルテ時代における記録とアウトカム評価」演者)

松浦克彦:

- 1) 第 1 回調剤業務適正化研修会(平成 20 年, 愛知, 「薬局における品質管理について」演者)
- 2) 平成 20 年度 岐阜薬科大学附属薬局リカレント講座 I (平成 20 年, 岐阜, 「緩和ケアにおける薬剤師の役割」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 杉山正: 日本医療薬学会奨励賞(平成 19 年度)

9. 社会活動

伊藤善規:

- 1) 岐阜県病院薬剤師会副会長(平成 20 年度)
- 2) 岐阜県薬剤師会理事(平成 20 年度)

10. 報告書

- 1) 伊藤善規: シスプラチン腎障害に対する細胞内サイクリック AMP を介する保護作用に関する研究: 平成 17 年度-18 年度科学研究補助金基盤研究(C)研究成果報告書(研究分担者: 大石了三)(平成 19 年 3 月)

- 2) 大石了三：ヨード造影剤による腎障害発現機序の解明と予防策の確立：平成17年度－18年度科学研究補助金基盤研究(C)研究成果報告書(研究分担者：伊藤善規)(平成19年3月)

11. 報道

- 1) 杉山正：薬の量や種類，PCが警告 調査監査システム開発 岐阜大など：朝日新聞(2006年2月28日)
- 2) 伊藤善規：セラミドと抗がん剤作用探る：岐阜新聞(2007年8月28日)

12. 自己評価

評価

臨床薬学分野での教員が教授以外にいないという状況を考慮すれば、ある程度の研究成果が得られたと考える。その半面、総説や著書等の執筆は少ない。さらに、学会等の特別講演やシンポジストといった業績が不十分である。

現状の問題点及びその対応策

臨床薬学分野における教員は教授のみであるという深刻な人材不足に加え、教授が薬剤部長を併任するため、十分な研究活動が行えていないのが現状である。その対応策としては、他分野との共同研究の推進、岐阜薬科大学との連携を推進する必要がある。

今後の展望

これまで実施してきた医薬品の新規剤型開発、品質管理試験、新規定量法の開発等の薬剤学的研究を基礎ならびに臨床の両分野で展開させるとともに、臨床現場にて遭遇する医薬品有害事象に関わる発現メカニズムを解明し、有効な治療もしくは予防対策を立案するための基礎ならびに臨床研究を展開する。一方、平成21年度に行われる岐阜薬科大学新学舎の本学キャンパス内への移転を機に薬科大学との教育ならびに研究面での連携を強化し、創薬・育薬のための基礎ならびに臨床研究を推進する。

(4) 医療経済学分野

1. 研究の概要

本分野では効率性や公平性などの観点から資源配分問題を考える経済学をはじめ、疫学、心理測定等の方法論を用いて、望ましい保健医療システムのあり方を示すことを目的とし、大きく医療政策及び医療評価に関する以下の研究を行っている。

1) 医療における生産性及び効率性に関する研究

医療における生産要素と生産物を明らかにし、それらより生産性指標及び効率性指標の算出を行い、その影響要因を明らかにするとともに、医療のパフォーマンス指標への応用を研究している。特に、急性期病院に求められる在院日数の短縮化と医療における質を反映できるパフォーマンス指標の開発を目標としている。

2) 遺伝子診断の需要分析研究

各種遺伝子診断について、その需要価格の推定と需要に影響する要因について研究している。

3) 診療内容・医療費分析研究

レセプト情報等の臨床疫学研究への応用、及び、医療費データの特性に応じた分析手法を研究している。

4) 予防医療に対する費用対効果分析研究

感染症ワクチン、特定保健指導等の一次予防に対する費用対効果分析について研究している。

2. 名簿

教授(併任)： 永田知里 Chisato Nagata
准教授： 高塚直能 Naoyoshi Takatsuka

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 高塚直能. 医療専門職のための医療経済学：医療経営教育協議会編. 医療マネジメント, 東京：日経メディカル開発；2008年：58－82.

著書（欧文）

疫学・予防医学分野参照

総説（和文）

疫学・予防医学分野参照

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 高塚直能, 西村周三. 入院医療サービスの生産性評価に用いるアウトプット指標の妥当性評価——床当たり年間退院患者数と病床利用率の比較——, 病院管理 2006年；43巻：103－115.
- 2) 岸田研作, 柿原浩明, 高塚直能, 後藤励. 運動習慣, 節酒習慣, 良い食事習慣の実践に影響する要因の分析, 医療と社会 2007年；17巻：329－338.
- 3) 高塚直能, 西村周三. オーダリングシステムが病院生産性, 効率性に及ぼす影響の評価, 医療経済研究 2008年；20巻：15－33.

原著（欧文）

疫学・予防医学分野参照

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

疫学・予防医学分野参照

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

永田知里：
疫学・予防医学分野参照

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

永田知里：
疫学・予防医学分野参照

高塚直能：

- 1) 岐大・十六産学連携医療経営シンポジウム(2007年6月，岐阜，「信頼される病院とは」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

永田知里：
疫学・予防医学分野参照

9. 社会活動

高塚直能：

- 1) 岐阜県保険者協議会(医療費分析相談)(～現在)
- 2) 岐阜県国保連合会生活習慣病予防対策検討委員会(アドバイザー)(～現在)
- 3) 岐阜県後期高齢者医療広域連合運営懇話会委員(～現在)
- 4) 厚生労働省 特定健診・特定保健指導に関する検討会 治療中の者に対する保健指導の効果に関するWG委員(～現在)

永田知里：

疫学・予防医学分野参照

10. 報告書

- 1) 山本眞由美，紀ノ定保臣，鈴木康之，高塚直能：医療情報管理システムと診断モデルー糖尿病ー：平成17年度経済産業省医療経営人材育成教育プログラム開発プロジェクト実績報告書(高度医療教育コンソーシアム(代表・山本容正(大阪大学)))：141-176(2006年3月)
- 2) 今井豊，高塚直能，大日康史：テキスト 第1章医療経済学の基礎知識：平成17年度経済産業省医療経営人材育成教育プログラム開発プロジェクト実績報告書(高度医療教育コンソーシアム(代表・山本容正(大阪大学)))：191-240(2007年3月)
- 3) 高塚直能，川口順敬，高橋孝夫，紀ノ定保臣，山本眞由美：ケース教材 急性期病院経営における病床マネジメントー特定機能病院消化器外科のケースー：平成17年度経済産業省医療経営人材育成教育プログラム開発プロジェクト実績報告書(高度医療教育コンソーシアム(代表・山本容正(大阪大学)))：578-619(2007年3月)
- 4) 長瀬清，高塚直能，紀ノ定保臣，山本眞由美：急性期病院経営における手術部マネジメント=特定機能病院手術室のケース=：平成19年度経済産業省サービス産業人材育成事業 病院業務マネジメントに関するケーススタディ教材開発プロジェクト報告書(代表・山本眞由美)(2008年3月)

11. 報道

疫学・予防医学分野参照

12. 自己評価

評価

業績積上げとマンパワー，研究費の確保を目指す必要がある。

現状の問題点及びその対応策

マンパワーに限りがあるため，大学院教育を通して学生の興味を喚起し，この分野に携わる者を育てていきたい。また医療費等のデータへのアクセスは限られているため，その確保が最重要課題である。その際，個人情報保護に留意することは勿論のことである。さらには欧文論文を増やす必要がある。本分野の研究は医療制度に踏み込むため論文内容が国内に限定される傾向があるが，欧文誌への投稿を継続的に行う予定である。

今後の展望

医療スタッフ不足による医療崩壊が叫ばれるようになって，国は医療費抑制の方針を改めることとなった。しかしながら，経済の先行きは不透明であり，今後も医療財源の確保には不確定要素が付きまとうものと思われる。故に，高齢化と医療の質への希求が進展する限り，医療に対する経済的分析視点の重要性はこれからも高まっていくものと考えられる。

本分野は冒頭に述べたとおり，医療政策と医療評価に関する研究を主体としている。今後は医学系研究科にある利点をより生かし，臨床分野との共同研究を増やしていきたい。即ち医療技術や地域医療提供体制のあり方等についてエビデンスを示していき，保健医療政策及び医療現場への情報還元を進めていく所存である。

(5) 救急・災害医学分野

1. 研究の概要

外的侵襲制御について基礎研究，臨床研究を通じて，国際的に通用する自立した研究者を育成することを目的とする。具体的なテーマとしては，外傷，ショック（含む敗血症），救急搬送，救急医療情報などについての臨床専門分野における診断，治療に関するものや，救急医学領域における外傷，敗血症などの外的侵襲の実験モデルを作成して基礎的な知見を得る。

2. 名簿

教授：	小倉真治	Shinji Ogura	
准教授：	豊田 泉	Izumi Toyoda	
准教授：	小塩信介	Shinsuke Ojio	(循環病態学)
講師：	白井邦博	Kunihiro Shirai	
臨床講師：	金田英巳	Hidemi Kanada	
臨床講師：	吉田省造	Shouzo Yoshida	
臨床講師：	熊田恵介	Keisuke Kumada	
臨床講師：	渡邊崇量	Takatomo Watanabe	(循環病態学)
臨床講師：	吉田隆浩	Takahiro Yoshida	
臨床講師：	増田剛宏	Takahiro Masuda	(整形外科学)
臨床講師：	長屋聡一郎	Soutiro Nagaya	(小児病態学)
臨床講師：	齋藤史朗	Shiro Saito	(循環病態学)
臨床講師：	土井智章	Tomoaki Doi	
医員：	加藤久晶	Katou Hisaaki	
医員：	名知 祥	Shou Nachi	(高度先進外科学)
医員：	松友将純	Masasumi Matutomo	(高度先進外科学)
医員：	若原和彦	Kazuhiko Wakahara	(整形外科学)
医員：	桑原秀次	Shuji Kuwabara	(小児病態学)
医員：	石黒光紀	Mitunori Ishiguro	(脳神経外科学)
医員：	中島賢憲	Masanori Nakashima	(消化器病態学)
医員：	北川順一	Junichi Kitagawa	(消化器病態学)
医員：	中野志保	Shiho Nakano	
医員：	吉真 孝	Takashi Yoshizane	(循環病態学)
医員：	横山ちはる	Chiharu Yokoyama	(循環病態学)
医員：	山田法顕	Noriaki Yamada	
医員：	竹田 啓	Hironu Takeda	

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 小倉真治. 呼吸器系疾患—気道異物—：大阪：MC メディカ出版；2006年：196—203.
- 2) 山田実貴人，豊田泉，吉村紳一，岩間亨，奥寺敬，小倉真治. 専門医に求められる最新の知識—脳血管障害—>脳卒中救急における脳卒中初期診療(ISLS)コースの重要性：東京：メディカ出版；2007年：945—952.
- 3) 熊田恵介. 今日の治療指針—呼吸系の緊急処置— 気管挿管法—：東京：医学書院；2008年：78—80.
- 4) 豊田泉. すぐに役立つ脳神経外科救急ハンドブック—CHAPTER3— 緊急治療「高体温」「低体温」：東京：メディカ出版；2008年：302—307.
- 5) 熊田恵介，豊田泉，小倉真治，福田充宏. 頭部外傷：月刊レジデント，東京：医学出版；2008年：29—34.
- 6) 熊田恵介. 「いつもと違う」と面会者が訴えた夜，患者は急変，心停止に—看護師，研修医のための急変対応 101 の鉄則—，東京：照林社；2008年：46—47.
- 7) 小倉真治. へき地・離島のある都道府県の救急医療体制の現状とあり方—救急医療改革—役割分担，連携，集約化と分散—，東京：東京法令出版；2008年：75—87.
- 8) 寺本貴英，小倉真治. 高次救命救急：小児科学 第3版，東京：医学書院；2008年：259—265.
- 9) 熊田恵介. 今日の治療指針—呼吸系の緊急処置— 気管挿管法—：東京：医学書院；2008年：78—80.
- 10) 金田英巳監訳. ACLS プロバイダーマニュアル AHA ガイドライン 2005年準拠日本語版，東京：株式会社シナジー；2008年：199—210.
- 11) 小倉真治. 整形外科・形成外科手術および熱傷の緊急麻酔—緊急麻酔の心得—ここが肝心・おさえどころ—，東京：克誠堂出版；2008年：117—137.
- 12) 熊田恵介，豊田泉，小倉真治，福田充宏. 頭部外傷：月刊レジデント，東京：医学出版；2008年：29—34.

- 13) 小倉真治. へき地・離島のある都道府県の救急医療体制の現状とあり方—救急医療改革—役割分担、連携、集約化と分散—, 東京: 東京法令出版; 2008年; 75—87.
- 14) 寺本貴英, 小倉真治. 高次救命救急—小児科学—第3版, 東京: 医学書院; 2008年; 259—265.

著書 (欧文)

- 1) なし

総説 (和文)

- 1) 小倉真治. SIRS, ATIII—SAC の治療戦略—, Pharma Medica 別冊 2006年; 70—79.
- 2) 白井邦博. 腸管機能からみた重症急性膵炎に対する集学的治療, 日本腹部救急医学会雑誌 2006年; 26巻: 2.
- 3) 小倉真治. 救命医療—温故知新一, 岐阜県医師会医学雑誌 2006年; 19巻: 59—61.
- 4) 小倉真治. 実践—救急医療—第II章—救急処置—デプリドマン, 日本医師会雑誌 2006年; 135巻: 82—83.
- 5) 小倉真治. バイオテロ被災者の急性期ケアの指針, 救急・集中治療ガイドライン 2006年; 18巻: 792—793.
- 6) 加藤久晶, 小倉真治. 敗血症, medicina 2006年; 43巻増刊号: 535—538.
- 7) 相引眞幸, 小倉真治. 関啓輔. 梅垣修. ショックにおける自律神経系の役割, ICUとCCU 2006年; 29巻: 1015—1023.
- 8) 岡本好司, 小倉真治. 基礎疾患に対する治療, 日本血栓止血学会誌 2006年; 17巻: 294—297.
- 9) 小倉真治. 病態別にみたDICの診断と治療, 治療学 2007年; 41巻: 249—251.
- 10) 熊田恵介, 豊田泉, 小倉真治, 福田充宏. 消防防災ヘリの限界とドクターヘリとの協力体制の構築について—本邦における救急ヘリ活動とその展望, 日本航空医療学会雑誌 2008年; 9巻: 1—5.

総説 (欧文)

- 1) なし

原著 (和文)

- 1) 八幡和憲, 松橋延壽, 加藤雅康, 小倉真治. 重症感染症後に発症した腸腰筋膿瘍の2例, 日本外科系連合学会誌 2006年; 31巻: 253—257.
- 2) 豊田泉, 加藤久晶, 松橋延壽, 白井邦博, 金田英巳, 小倉真治, 岡田真人. 岐阜大学病院における防災ヘリのドクターヘリの活用—Using of Fire fighting Helicopters Performed a Doctor Helicopter in Gifu University Hospital—, 日本航空医療学会雑誌 2006年; 7巻: 12—15.
- 3) 山田徹, 近藤浩史, 土井智章, 伊藤慎一, 山本直樹, 江原英俊, 南館謙, 石原哲, 出口隆. Vascular access intervention therapy の早期施行は、シヤントの急性閉鎖と再建術を減少させるか?, 泌尿紀要 2006年; 52巻: 699—703.
- 4) 加藤宏, 木村昭夫, 佐々木亮, 金子直之, 武田宗和, 鈴木忠, 島崎修次, 萩原章嘉, 小倉真治, 溝口隆司, 松岡哲也, 小野秀文, 松浦謙二, 松島一英. X線上骨傷不名瞭な頸髓損傷(SCIWORA)に関する多施設後向き調査, 日本外傷学会誌 2006年; 20巻: 333—339.
- 5) 小倉真治. 岐阜型救急災害医学ヘリを用いたメディカルコントロール, 病院前救急診療研究会誌 2006年; 1巻: 47—55.
- 6) 小倉真治, 他学術標準化委員. EBMに基づくDICガイドライン作成に向けての調査研究, 日本血栓止血学会誌 2006年; 17巻: 278—330.
- 7) 福岡憲泰, 塚本豊久, 森田修之, 小倉真治. 重症例に対するテイコプラニンの負荷投与量についての検討, TDM研究 2006年; 23巻: 6—9.
- 8) 増栄成泰, 安藤公隆, 豊田泉, 森義雄, 小倉真治, 中根慶太, 萩原徳康, 高橋義人, 出口隆. 先天性腎盂尿管移行部狭窄症に合併した外傷性腎損傷の1例, 救急医学 2007年; 31巻: 111—113.
- 9) 白井邦博. 重症急性膵炎の治療, 臨床画像 2007年; 23巻: 544—554.
- 10) 白井邦博, 豊田泉, 吉田省造, 金田英巳, 熊田恵介, 山田実喜人, 吉田隆浩, 加藤久晶, 土井智章, 中野志保, 竹田啓, 山田法頭, 小倉真治, 松橋延壽. 外傷患者における入院後感染性合併症の危険因子についての検討, 日本外傷学会雑誌 2008年; 22巻: 403—409.

原著 (欧文)

- 1) Kato M, Tanaka Y, Toyoda I, Ogura S, Yoshimura S, Iwata T. Delayed lower cranial nerve palsy(Collet-Sicard syndrome) after head injury. Injury Extra. 2006;37:104-108. IF 1.211
- 2) Matsuhashi N, Mizoguchi T, Kanematsu M, Kondo H, Goshima S, Mitsuiishi N, Yoshimura K, Ogiso T, Tawada M, Kuwabara S, Ikegame Y, Kato M, Shirai K, Yamaguchi H, Toyoda I, Ogura S. A case of delayed rectal stenosis from severe pelvic fracture with massive bleeding successfully treated by bilateral internal iliac TAE: Report on a patient survival. Int J Colorectal Dis. 2006;22:853-4. IF 1.848
- 3) Matsuhashi N, Satake S, Yawata K, Asakawa E, Mizoguchi T, Kanematsu M, Kondo H, Yasuda I, Nonaka K, Tanaka C, Misao A, Ogura S. Volvulus of the gall bladder diagnosed by ultrasonography, computed tomography, coronal magnetic resonance imaging and magnetic resonance cholangio - pancreatography. World Gastroenterol. 2006;12:4599-4601. IF 3.318

- 4) Takamatsu T, Ogura S, Tamura S, Hayamizu S. GEMSIS, An introduction of Intelligent Information Support System for Emergency and Disaster Medicine. J Health Tech Appl. 2007;5:12-17.
- 5) Takai S, Tokuda H, Hanai T, Harada A, Yasuda E, Kato H, Ogura S, Ohta T, Kozawa O. Negative Regulation by p70 S6 kinase of FGF-2-Stimulated VEGF Release Through Stress-Activated Protein Kinase/c-Jun N-Terminal Kinase in Osteoblasts. J Bone Miner Res. 2007;5:337-346. IF 6.635
- 6) Yamauchi J, Takai S, Matsushima-Nishiwaki R, Hanai Y, Doi T, Kato H, Ogura S, Kato K, Tokuda H, Kozawa O. -epigallocatechin gallate inhibits prostaglandin D2-stimulated HSP27 induction via suppression of the p44/p42 MAP kinase pathway in osteoblasts. Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids. 2007;77:173-9. IF 2.000
- 7) Kato H, Kimura A, Sasaki R, Kaneko N, Takeda M, Hagiwara A, Ogura S, Mizoguchi T, Matsuoka T, Ono H, Matsuura K, Matsushima K, Kushimoto S. Cervical Spinal Cord Injury Without Bony Injury -A Multicenter Retrospective Study of Emergency and Critical Care Centers in Japan. J Trauma Inj Infect Crit Care. 2008;65:373-379. IF 2.334
- 8) Kato H, Takai S, Matsushima-Nishiwaki R, Adachi S, Minamitani C, Otsuka T, Tokuda H, Akamatsu S, Doi T, Ogura S, Kozawa O. HSP27 phosphorylation is correlated with ADP-induced platelet granule secretion. Arc Biochem Biophys. 2008;475:80-86. IF 2.969
- 9) Tokuda H, Takai S, Hanai Y, Harada A, Matsushima-Nishiwaki R, Kato H, Ogura S, Kozawa O. Potentiation by platelet-derived growth factor-BB of FGF-2-stimulated VEGF release in osteoblasts. J Bone Miner Metab. 2008;26:335-341. IF 1.425

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：山田徹；科学研究費補助金 若手研究(B)：血液中、細菌 DNA、mRNA 定量による、敗血症の迅速診断と、抗菌薬の効果判定；平成 18-19 年度；1,100 千円
- 2) 研究代表者：加藤雅康；科学研究費補助金 若手研究(B)：サイトカイン・バランスから見た重症感染症の病態解析と治療抵抗性遺伝子の同定；平成 18-19 年度；1,600 千円
- 3) 研究代表者：松橋延壽；科学研究費補助金 若手研究(B)：敗血症におけるアポトーシスとサイトカインネットワーク及び遺伝子多型の解析；平成 18-19 年度；1,700 千円

2) 受託研究

- 1) 小倉真治：Hepatocyte におけるアンチトロンビン産生能に対するグラム陽性菌・陰性菌刺激による生産性御メカニズムの検討；平成 17-19 年度；230 千円(230：0：0 千円)：ZLB ベーリング(株)
- 2) 小倉真治，森田啓之：電気刺激機能付き弾性ストッキングの静脈血栓症に対する予防効果の検討；平成 18 年度；2,000 千円：オムロンヘルスケア(株)
- 3) 小倉真治，豊田 泉，加藤久晶：フィニバックス点滴用 0.25g 使用成績調査；平成 18 年度；300,300 円：塩野義製薬(株)
- 4) 小倉真治：シベレスタットナトリウム水和物市販後臨床実験 全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害に対するオープン試験(シベレスタットナトリウム水和物投与群)；平成 17-18 年度；932,400 円：小野薬品工業(株)
- 5) Hepatocyte におけるアンチトロンビン産生能に対するグラム陽性菌・陰性菌刺激による生産制御メカニズムの検討；平成 17-19 年度；230 千円(230：0：0 千円)：ZLB ベーリング(株)
- 6) 小倉真治：外科救急領域における深在性真菌症にかんする調査；平成 20-21 年度；154 千円：予防医学事業中央会

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

小倉真治：

- 1) 日本救急医学会評議員・脳死臓器提供に関する委員編集委員会委員(～現在)
- 2) 日本集中治療医学会評議員(～現在)
- 3) 日本 Shock 学会評議員(～現在)

- 4) 日本航空医療学会評議員・査読委員(～現在)
- 5) 日本外傷学会評議員・将来計画委員・専門医認定委員(～現在)
- 6) 日本救急医学会東海地方会監事(～現在)
- 7) 日本臨床救急医学会将来計画検討委員・トリアージナース育成検討小委員会委員(～現在)
- 8) 日本集団災害医学会秋葉原事件調査特別委員会委員(平成 20 年度～現在)

豊田泉：

- 1) 日本救急医学会中部地方会幹事(～現在)
- 2) 日本神経外傷学会編集幹事(～現在)
- 3) 日本脳神経外科救急医学会幹事(～現在)

熊田恵介：

- 1) 日本救急医学会評議員(～現在)
- 2) 日本臨床救急医学会評議員(～現在)

小塩信介：

- 1) CCT2008 評議員(～現在)
- 2) 東海ライブ研究会幹事(～現在)

吉田省造：

- 1) 日本救急医学会関東地方会幹事(～現在)

2) 学会開催

小倉真治：

- 1) JATEC 岐阜コース(平成 18 年 5 月, 岐阜)
- 2) 日本救急医学会中部地方会総会・学術集会(平成 19 年 11 月, 岐阜)
- 3) JATEC 岐阜コース II(平成 20 年 5 月, 岐阜)

3) 学術雑誌

小倉真治：

- 1) 日本救急医学会中部地方会総会・学術集会誌(平成 19 年 11 月～現在)
- 2) 日本救急医学会；編集委員(～現在)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

小倉真治：

- 1) The 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society(平成 18 年 3 月, 名古屋, シンポジウム「災害時の循環器疾患」座長)
- 2) 第 20 回日本外傷学(平成 18 年 5 月, 名古屋, ランチョンセミナー「止血・TAE, 他」座長)
- 3) 第 20 回日本外傷学(平成 18 年 5 月, 名古屋, ランチョンセミナー「救急領域における呼吸不全の病態と治療戦略」演者)
- 4) 第 9 回日本臨床救急医学会総会(平成 18 年 5 月, 盛岡市, シンポジウム「岐阜救急医療情報共有援助システム(GEMSIS)の開発」演者)
- 5) 第 66 回下呂市医師会学術講演会(平成 18 年 6 月, 下呂, 特別講演「救急領域における呼吸管理」演者)
- 6) 第 1 回岐阜救急集中治療セミナー(平成 18 年 6 月, 岐大病院, 特別講演「敗血症性 DIC の血管内皮細胞保護戦略」座長)
- 7) 第 14 回日本集中治療医学会東海北陸地方会(平成 18 年 6 月, 富山, ランチョンセミナー「敗血症と急性肺障害の治療」演者)
- 8) 第 8 回岐阜大学救急医学講演会(平成 18 年 7 月, 岐大病院, 特別講演「急性期 DIC 診断基準と DIC 治療ガイドライン」座長)
- 9) 第 4 回救急領域感染対策セミナー(平成 18 年 8 月, 岐阜, 特別講演「MRSA 感染症と VCM 耐性菌」座長)
- 10) 第 2 回地域医療連携講演会(平成 18 年 9 月, 高知, 講演会「救急領域における急性呼吸不全」演者)

- 11) 第9回岐阜大学救急医学講演会(平成18年11月, 岐大病院, 特別講演「1)京大病院初期診療・救急部の現状 2)出血性ショック後の腸間膜リンパ液中に存在する脂質メデイエーターの検討」座長)
- 12) 日本集団災害医学会(平成19年1月, 名古屋, シンポジウム「救急医療情報共有支援システム(GEMSIS)を用いたマスマスガザリング情報伝達システム-GEMSIS第3報-演者)
- 13) 全国国立大学病院救急部連絡協議会(平成19年2月, 松本, シンポジウム「岐阜大学医学部附属病院の使命・そのコストとパフォーマンス」演者)
- 14) 第34回日本集中治療学会学術総会(平成19年3月, 神戸, ワークショップ「ICUにおける電子カルテの工夫」座長)
- 15) 第34回日本集中治療学会学術総会(平成19年3月, 神戸, ワークショップ「集中治療の電子カルテの工夫」演者)
- 16) 第10回日本臨床救急医学総会・学術集会(平成19年5月, 神戸, パネルディスカッション「空港災害時医療体制の新しい概念とそれを支援する情報システム(GEMSIS)第4報」演者)
- 17) 第21回日本外傷学会(平成19年5月, 千葉, 「腹部外傷I(実質臓器損傷)」座長)
- 18) へき地・離島救急医療研究会第11回学術集会(平成19年10月, 高知, シンポジウム「岐阜県のへき地救急医療の確保」演者)
- 19) 第35回日本救急医学会(平成19年10月, 大阪, 講演「Frontier4「敗血症の病態と治療-Surviving Sepsis Campaign guidelinesの病態生理学的解釈-」座長)
- 20) 第35回日本救急医学会(平成19年10月, 大阪, セッション「地域医療と救急医療の接点を支援する救急医療情報支援システム GEMSIS-第5報-」演者)
- 21) 救急カンファレンス(平成19年10月, 静岡, 特別講演「救急領域における呼吸管理」演者)
- 22) 第11回岐阜大学救急医学講演会(平成20年5月, 岐阜, 「災害時における病院の役割～今だから話せる地下鉄サリン事件の反省点～」座長)
- 23) 国際外傷カンファレンス(平成20年5月, 岐阜, 特別講演「地方における外傷医療体制の確立」座長)
- 24) 日本麻酔科学会第55回学術集会(平成20年6月, 神奈川, 「Multiple Trauma Management」座長)
- 25) 第3回岐阜救急集中治療セミナー(平成20年8月, 岐阜, 特別講演「2008年敗血症およびDIC管理の動向」座長)
- 26) 山梨救急集中治療フォーラム2008(平成20年9月, 甲府, 招待講演「集中治療における呼吸管理と治療戦略」演者)
- 27) 第36回日本救急医学会総会・学術集会(平成20年10月, 北海道, ワークショップ「臨床研修必修化における救急の研修効果向上の工夫」座長)
- 28) 岐阜救急外傷セミナー(平成20年11月, 岐阜, 特別講演「脊椎・脊髄損傷の急性期治療」座長)
- 29) 第15回日本航空医療学会(平成20年11月, 松江市, 「中枢神経・循環器」座長)

豊田泉 :

- 1) The 70th Anniversary Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society(平成18年3月, 名古屋, シンポジウム「Emergency System for Circulatory Diseases During Disasters and Associated Problems From the Standpoint of Emergency」演者)
- 2) 第21回日本神経救急学会学術集会(平成19年6月, 京都, 講演「岐阜県における脳卒中初期診療(ISLS)コース開催の現状と今後」演者)
- 3) 第13回東海MODS研究会(平成19年12月, 岐阜, 「「災害」院外の災害対策について」座長)

白井邦博 :

- 1) 第34回日本集中治療医学会学術総会(平成19年3月, 神戸, シンポジウム「重症急性膵炎(SAP)における臓器障害に対する炎症と凝固線溶系」演者)
- 2) 第107回日本外科学会定期学術集会(平成19年4月, 大阪, シンポジウム「当院救命センターにおける重症急性膵炎に対する治療戦略の検討～厚生労働省重症度 stage 分類別、松野 CT grade 分類別に～」演者)
- 3) 第21回日本外傷学会(平成19年5月, 千葉, 講演「当院救命救急センターにおける外傷患者の入院後感染症合併症の検討」演者)
- 4) 第62回日本消化器外科学会学術集会(平成19年7月, 東京, 講演「重症急性膵炎における感染性合併症の検討」演者)
- 5) 第1回東海救命救急SBMN研究会学術講演会(平成19年9月, 名古屋, シンポジウム「重症急性膵

- 炎に対する栄養管理」演者)
- 6) 第 35 回日本救急医学会(平成 19 年 10 月, 大阪, ワークショップ「重症急性膵炎における感染性合併症に対する治療戦略」演者)
 - 7) 第 20 回日本外科感染症学会(平成 19 年 11 月, 東京, 講演「外傷患者の入院後感染症についての検討」演者)
 - 8) 第 36 回日本救急医学会総会・学術集会(平成 20 年 10 月, 北海道, シンポジウム「重症外傷の出血に対する治療戦略～緊急手術と経カテーテル的動脈塞栓術(TAE)との併用療法の検討～」演者)

熊田恵介：

- 1) 第 10 回日本臨床救急医学会総会(平成 19 年 5 月, 神戸, シンポジウム「ボンバル機胴体着陸における対応」演者)
- 2) 第 35 回日本救急医学会(平成 19 年 10 月, 大阪, 「救急医療体制」座長)
- 3) 第 15 回日本航空医療学会総会(平成 20 年 11 月, 島根, シンポジウム「消防防災ヘリとドクターヘリを如何に有効活用すべきか」演者)

高松邦彦：

- 1) 第 21 回太平洋学術会議(平成 19 年 6 月, 沖縄, 「GEMISIS, An introduction of Intelligent Information Support System for Emergency and Disaster Medicine By Prof Kunihiko Takamatsu」演者)

吉田省造：

- 1) 第 18 回日本急性血液浄化学会学術集会(平成 19 年 10 月, 大分, 「重症急性膵炎を合併した有機燐中毒の 1 例」演者)

長屋聡一郎：

- 1) 第 34 回日本集中治療医学会学術総会(平成 19 年 3 月, 神戸, シンポジウム「岐阜大学医学部附属病院 ICU/HCU における電子カルテ運用の現状」演者)

名知 祥：

- 1) 第 3 回 ICLS シンポジウム(1st announcement)(平成 19 年 9 月, 名古屋, シンポジウム「ALS 活動を広める為の方法論 ガイドライン改定後の岐阜県下の現状～ACLS 岐阜の活動を通して～」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

小倉真治：

- 1) 第 28 期東京消防庁救急業務懇話会委員(～現在)
- 2) 岐阜県国民保護協議会委員(～現在)
- 3) 岐阜県メディカルコントロール協議会委員(～現在)
- 4) 岐阜県消防業務広域化検討委員会委員(～現在)
- 5) 岐阜県広域災害・救急医療情報システム運営委員会委員(～現在)
- 6) 岐阜市救急業務対策協議会委員(～現在)
- 7) NPO 法人岐阜救急災害医療研究開発機構常務理事(～現在)
- 8) 岐阜東洋医学研究会世話人(～現在)
- 9) 岐阜県地震防災行動計画フォローアップ委員会委員(～現在)

豊田泉：

- 1) 岐阜市救急業務高度化検討委員会委員(～現在)
- 2) 岐阜地域メディカルコントロール協議会委員(～現在)
- 3) NPO 法人岐阜救急災害医療研究開発機構理事(～現在)

吉田隆浩：

- 1) 岐阜地域メディカルコントロール体制係る検証医師(2007～現在)

高次救命治療センター：

- 1) イビデンススペシャル NOKIA スノーボード FIS ワールドカップ 2008GIFU/GUJO 大会 DMAT 隊員派遣(2008年2月22日～2月24日)

10. 報告書

- 1) 小濱啓次, 福田充宏, 鈴川正之, 小倉真治, 高山隼人, 今道英秋, 澤田努：へき地・離島救急医療体制における救急医療機関の連携と患者と医療資源の集約化に関する研究：厚生労働科学研究費補助金 分担研究報告書(福田班)：97-107(2007年3月1日)

11. 報道

- 1) 小倉真治：土曜ラジオかわら版：岐阜ラジオ(2006年1月1日～現在 毎月1回)
- 2) 小倉真治：Weekly file ぎふ ぎふをよむ 高度救命救急センター認定：岐阜放送(2006年2月10日)
- 3) 山田実貴人：4日に全国花火大会 医療チーム本部に待機 岐阜大万に備え：岐阜新聞(2007年8月2日)
- 4) 小倉真治：救急医療は時間との闘い：岐阜新聞(2007年10月28日)
- 5) 小倉真治：救急医療は時間との闘い：中日新聞(2007年10月30日)
- 6) 小倉真治：助かる命助ける使命：読売新聞(2008年1月4日)
- 7) 小倉真治：救急に欠かせぬ存在：岐阜新聞(2008年1月5日)
- 8) 小倉真治：急病人想定し搬送訓練：岐阜新聞(2008年1月23日)
- 9) 小倉真治：救急たらい回し防げ：読売新聞(2008年1月25日)
- 10) 小倉真治：ニュース9：NHK(2008年3月10日)
- 11) 小倉真治：報道ステーション：テレビ朝日(2008年3月20日)
- 12) 小倉真治：ホットイブニング：NHK(2008年6月)
- 13) 小倉真治：報道ステーション：テレビ朝日(2008年10月20日)
- 14) 小倉真治：災害報道ドキュメンタリー：日本テレビ(2008年12月7日)
- 15) 小倉真治：特ダネ 妊婦救急体制～なぜ岐阜県でうまくいっているのか～：フジテレビ(2008年12月8日)
- 16) 小倉真治：ホットイブニング 予算企画・救急システム：NHK(2008年12月22日)

12. 自己評価

評価

前述の目的に沿った研究を展開する準備が整い始めており、現状での評価はようやく及第点である。

現状の問題点及びその対応策

臨床業務が多忙であり、研究のための時間を取りづらいのが現状である。今後は臨床面をおろそかにしない範囲で、スタッフを増加して研究を展開したい。

今後の展望

前記のような現状であるが、徐々に教育スタッフが増加しており今後はさらに基礎講座ともコラボレートして研究を促進したい。

(6) 法医学分野

1. 研究の概要

これまでと同様。法医病理学的な研究としては、従来は死後の角膜混濁のため、眼球を剔出しなければ観察できなかった眼内所見を眼科手術的に開発された先端径が0.9 mmの内視鏡を用いて解剖時に観察し、眼底出血等の発生と死因や受けた損傷との関係、その意義等について検討し、眼底出血は頭蓋内出血や頸部圧迫による窒息死例等に高頻度に認められるのに対し、うっ血乳頭は頭蓋内出血死例では認められるが、頸部圧迫による窒息死例では認められないことを明らかにし、また、溺死例においても高頻度に眼底出血が認められることを新知見として報告することができた。また、突然死の原因としての冠動脈奇形の意義や致命的不整脈における心臓の組織学的変化について等の研究を行った。DNA多型に関する研究では、ミトコンドリアDNA高変異領域の塩基配列解析ならびにSTR (short tandem repeat) 多型の出現頻度や多型構造の解析を行い、DNA鑑定において必要となる、岐阜県在住の日本人集団を対象としたデータベースを構築することができた。また、ミトコンドリアDNAHVIII領域に存在するlength heteroplasmyの構造を解析し、その法医学的応用について研究したほか、X染色体上のSTR座位の日本人集団における高度な構造多型を明らかにし、その人類遺伝学的解析も行った。

2. 名簿

教授： 武内康雄 Yasuo Bunai
助教： 永井 淳 Atsushi Nagai

3. 研究成果の発表

著書 (和文)
なし

著書 (欧文)
なし

総説 (和文)

- 1) 中山雅弘, 中川 聡, 青木康博, 加藤稲子, 齋藤一之, 高嶋幸男, 戸荊 創, 的場梁次, 小保内俊雅, 北島博之, 小林庸次, 仁志田博司, 武内康雄, 山南貞夫. 乳幼児突然死症候群(SIDS)診断の手引き 改訂第2版, 日本SIDS学会雑誌 2006年; 6巻: 73-97.
- 2) 武内康雄. 窒息または虐待と突然死, 日本SIDS学会雑誌 2007年; 7巻: 44-47.

総説 (欧文)
なし

原著 (和文)
なし

原著 (欧文)

- 1) Tsujinaka M, Bunai Y. Postmortem ophthalmologic examination by endoscopy. Am J Forensic Med Pathol. 2006;27:287-291. IF 0.603
- 2) Nagai A, Nakamura I, Bunai Y. Analysis of the HVI, HVII and HVIII regions of mtDNA in 400 unrelated Japanese. Prog Forensic Genet. 2006;11:139-141.
- 3) Endo S, Matsunaga T, Horie K, Tajima K, Bunai Y, Carbone V, El-Kabbani O, Hara A. Enzymatic characteristics of an aldo-keto reductase family protein (AKR1C15) and its localization in rat tissues. Arch Biochem Biophys. 2007;465:136-147. IF 2.969
- 4) Bunai Y, Akaza K, Tsujinaka M, Nakamura I, Nagai A, Jiang W-X, Mizoguchi Y, Ohya I. Sudden death due to undiagnosed intracranial hemangiopericytoma. Am J Forensic Med Pathol. 2008;29:170-172. IF 0.603
- 5) Bunai Y, Akaza K, Jiang WX, Nagai A. Fatal hyperthermia associated with excited delirium during an arrest. Leg Med. 2008;10:306-309.
- 6) Chen H, Shoumura S, Emura S, Bunai Y. Regional variations of vertebral trabecular bone microstructure with age and gender. Osteoporos Int. 2008;19:1473-1483. IF 3.893
- 7) Nagai A, Bunai Y. Analysis of mtDNA HVIII length heteroplasmy. Forensic Science International: Genetics Supplement Series. 2008;1:290-291.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：武内康雄；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)眼科用内視鏡を用いての法医剖検例における眼底所見の意義の検討；平成 19-20 年度；1,840 千円(1,040 千円：800 千円)

2) 受託研究

- 1) 武内康雄：薬毒物検査等受託事業費；平成 18 年度；3,611 千円：岐阜県警察本部
- 2) 武内康雄：薬毒物検査等受託事業費；平成 19 年度；5,156 千円：岐阜県警察本部
- 3) 武内康雄：薬毒物検査等受託事業費；平成 20 年度；3,270 千円(12 月現在)：岐阜県警察本部

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

武内康雄：

- 1) 日本法医学会評議員(～現在)
- 2) 法医病理研究会運営委員(～現在)
- 3) 日本 SIDS 学会評議員(～現在)
- 4) 日本 SIDS 学会症例検討委員(～現在)
- 5) 日本 SIDS 学会診断基準検討委員(～現在)

2) 学会開催

武内康雄：

- 1) 第 14 回日本 SIDS(乳幼児突然死症候群)学会学術集会(平成 20 年 3 月，岐阜)

3) 学術雑誌

武内康雄：

- 1) 法医病理；編集委員長(～現在)
- 2) Legal Medicine；Editorial Board(～現在)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

武内康雄：

- 1) 法医病理研究会第 13 回夏期セミナー(2006 年 7 月，岐阜，特別講演 I 「糖尿病内分泌疾患による突然死」座長)
- 2) 法医病理研究会第 13 回夏期セミナー(2006 年 7 月，岐阜，特別講演 III 「SIDS と先天代謝異常」座長)
- 3) 第 13 回日本 SIDS(乳幼児突然死症候群)学会学術集会(2007 年 3 月，福岡，シンポジウム「乳幼児突然死症候群の発生要因と予防－類縁疾患、事故死や虐待との鑑別も含めて－」演者)
- 4) 第 14 回日本 SIDS(乳幼児突然死症候群)学会学術集会(2008 年 3 月，岐阜，教育講演「今日の幼児・児童虐待とその背景」座長)

永井 淳：

- 1) 日本毛髪美容学会第 2 回学術大会(2008 年 2 月，浜松，教育講演「毛髪と皮膚－動物の不思議－」座長)
- 2) 日本毛髪美容学会第 2 回学術大会(2008 年 2 月，浜松，教育講演「血液で親子を決める」座長)
- 3) 日本毛髪美容学会第 2 回学術大会(2008 年 2 月，浜松，教育講演「髪の毛 1 本で“あなた”がわかる－毛髪と DNA 分析－」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

武内康雄：

- 1) 岐阜県公害審査会委員(～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

- 1) 武内康雄：窒息・虐待－微細な変化にも注意が必要：Medical Tribune(2007年5月17日)

12. 自己評価

評価

年間 70～80 体の法医解剖の鑑定を嘱託されており、解剖やその後の検査、鑑定書作成等のため研究のための時間が制約されているが、それなりの成果をあげられたと思っている。

現状の問題点及びその対応策

法医学分野では、現在 2 名の教員が教育・研究・実務に従事しており、研究などの面では国内外から相応の評価を受けている。しかしながら、研究領域がやや固定化してきていることは否めず、また、人事が固定化しつつあるという問題点もある。そこで、今後は学外との共同研究を目指しながら、学問の進歩に則し新しい研究手法を取り入れ、時代の傾向に則して研究分野を広げる必要があると考えられる。また、本分野に新しい息吹を引き起こすために、大学院生が入学しやすい環境と設備を整えることが急務であると考えられる。

今後の展望

法医病理学的な研究として、今後外傷の病理、特に、受傷後早期に起こる変化について、分子病理学的研究を始めたい。DNA 多型に関する研究では、引き続き日本人集団における DNA 多型のデータベースを進めるとともに、個人識別に有用な DNA 多型領域の検討ならびに DNA 多型のより効率的な検出法の開発等、世界の趨勢に遅れず、研究を推進していきたい。

(7) 産業衛生学分野

1. 研究の概要

衛生学は広い意味での環境とヒトの関わりを解析し、ヒトの健康の保持・増進に寄与することを目的とした実学である。衛生学は包括的な応用科学であって、基礎医学に属するものではなく、社会医学の一分野である。従って、社会の要請に積極的に答えていかなくてはならない宿命にある。現在の産業衛生学分野の研究内容は、職場における実践活動を通じたもので、以下のような研究を行っている。

(1) 建設労働者、電柱電線工事従事者などの屋外労働者を対象に健康問題、作業環境、労働条件の検討を行い、快適職場づくりのための研究、(2) 熱中症、振動障害、騒音性難聴の予防の研究、(3) 各種職場における腰痛をはじめとした筋骨格系障害予防の研究、(4) 職場のメンタルヘルスの研究、(5) 医師をはじめとした医療従事者の健康障害予防の研究を行っている。

2. 名簿

准教授： 井奈波良一 Ryoichi Inaba

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 井奈波良一. 労働衛生対策の基本：産業保健ハンドブック編集委員会編，産業保健ハンドブック 改訂 4 版，東京：労働調査会；2006 年：7.
- 2) 井奈波良一. 「健康づくりのための運動指針 2006」について：産業保健ハンドブック編集委員会編，産業保健ハンドブック 改訂 5 版，東京：労働調査会；2007 年：35.
- 3) 井奈波良一. 職場の健康管理，岐阜，(財)岐阜県市町村行政情報センター，2007 年：1-27.
- 4) 井奈波良一. 「安衛法上の健診・保健指導と特定健診・特定保健指導」：産業保健ハンドブック編集委員会編，産業保健ハンドブック 改訂 6 版，東京：労働調査会；2008 年：24.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 井奈波良一. 遺跡発掘現場の労働負担－夏期の熱中症対策－，労働の科学 2006 年；61 巻：626-629.
- 2) 井奈波良一. 遺跡発掘現場の労働負担－冬期の防寒対策－，労働の科学 2007 年；62 巻：174-176.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 井奈波良一，広瀬万宝子，黒川淳一，井上真人，岩田弘敏. 大学生協調理場従業員の夏期の自覚症状と暑熱対策，日本職業・災害医学会会誌 2006 年；54 巻：18-24.
- 2) 井奈波良一，井上真人. 埋蔵文化財発掘調査機関における労働安全衛生管理の実態 第 2 報，日本職業・災害医学会会誌 2006 年；54 巻：262-267.
- 3) 井奈波良一，日置敦巳. 自治体における安全衛生管理活動の実態，日本職業・災害医学会会誌 2007 年；55 巻：39-48.
- 4) 井奈波良一，広瀬万宝子，小野桂子，黒川淳一，井上真人. 屋外電柱電線工事従事者の夏期の自覚症状と暑熱対策，日本職業・災害医学会会誌 2007 年；55 巻：105-112.
- 5) 井奈波良一，横山和仁. 製造工場男性労働者の職場のメンタルヘルス対策における地域の精神科・医療機関に対する重視度と満足度に関する調査，日本職業・災害医学会会誌 2007 年；55 巻：128-135.
- 6) 井奈波良一，黒川淳一，井上真人. 大学病院医師の離職願望と勤務状況，日常生活習慣および職業性ストレスとの関係，日本職業・災害医学会会誌 2007 年；55 巻：219-225.
- 7) 井垣通人，阪本一朗，井奈波良一. 夏期における冷房環境下のスーパーマーケット女性従業員を対象とした蒸気温熱シートの適用効果，日本職業・災害医学会会誌 2007 年；55 巻：233-238.
- 8) 井奈波良一，井上真人，岩田弘敏. 建物解体作業における冬期の自覚症状調査 第 2 報，日本職業・災害医学会会誌 2007 年；55 巻：253-259.
- 9) 黒川淳一，井上真人，井奈波良一，岩田弘敏. メンタルヘルス不調者への対応事例を通じて職場での問題点を考える，日本職業・災害医学会会誌 2008 年；56 巻：53-61.
- 10) 井奈波良一，黒川淳一，井上真人. 民有林業労働者における冬期の自覚症状と防寒対策，日本職業・災害医学会会誌 2008 年；56 巻：192-197.

原著 (欧文)

- 1) Inaba R, Mirbod SM. Comparison of subjective symptoms and hot prevention measures in summer between traffic control workers and construction workers in Japan. Ind Health. 2007;45:91-99. IF 0.792

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：横山和仁(三重大学大学院医学系研究科)，研究分担者：井奈波良一；厚生労働科学研究費補助金：労働者のメンタルヘルス対策における地域保健・医療との連携のあり方に関する研究；平成16-18年度；3,000千円(1,000：1,000：1,000千円)
- 2) 研究代表者：横山和仁(三重大学大学院医学系研究科)，研究分担者：井奈波良一；厚生労働科学研究費補助金：労働者のメンタルヘルス不調の予防と早期支援・介入のあり方に関する研究；平成20年度；600千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

- 1) 井奈波良一：めぐりズム温熱パワー医療機器及びその温熱関連開発品の適用効果調査及び啓発；平成19年度-20年度；500千円；花王パーソナルヘルスケア研究所

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

井奈波良一：

- 1) 日本衛生学会評議員(～現在)
- 2) 日本産業衛生学会代議員(～現在)
- 3) 日本民族衛生学会評議員(～現在)
- 4) 日本温泉気候物理医学会評議員(～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

井奈波良一：

- 1) 日本温泉気候物理医学会雑誌；編集委員(平成19年5月～現在)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

井奈波良一：

- 1) 第3回交通科学シンポジウム-職業運転手をおそう病気(平成20年2月，東京，「トラック運転手の眠気発症と交通事故」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

井奈波良一：

- 1) 建設業における健康づくりのあり方に関する調査研究委員会委員(平成18年度)
- 2) 振動障害等の防止に係る作業管理のあり方検討会委員(厚生労働省)(平成19年度)
- 3) 岐阜県自然環境保全委員会委員(平成20年度)
- 4) 岐阜市環境審議会委員(平成20年度)
- 5) 産業保健相談員(岐阜産業保健推進センター)(平成20年度)
- 6) 労働衛生指導医(岐阜労働局)(平成20年度)
- 7) 岐阜県環境影響評価審査会委員(平成20年度)

10. 報告書

- 1) 井奈波良一：労働者の職場のメンタルヘルス対策における地域の精神科・医療機関に対する重視度と満足度に関する調査 その2：平成17年度厚生労働科学研究費補助金 総括・分担研究報告書：97-111(2006年3月)
- 2) 井奈波良一：労働者の職場のメンタルヘルス対策における地域の精神科・医療機関に対する重視度と満足度に関する調査 その3：平成18年度厚生労働科学研究費補助金 総括・分担研究報告書：73-94(2007年3月)

11. 報道

- 1) 井奈波良一，井垣通人：「部分温め」冷え過ぎ防ぐ：読売新聞(2008年8月27日)

12. 自己評価

評価

概要に示した当分野の研究を実施し，論文を作成した。論文について，全体の数は十分だと考えられるが，欧文論文が少ないので，この点のいっそうの努力が必要である。外部資金については，厚生労働科学研究費補助金，共同研究，奨学寄付金を得たが，今後文部科学省からの科学研究費補助金を獲得する必要がある。社会活動については十分行われていると考えている。

現状の問題点及びその対応策

教員が1名でマンパワーに問題があり，また研究室が手狭なため実験的研究がほとんどできないという問題点がある。これを打開するために大学院入学の勧誘や，他分野，他施設との共同研究に力を入れている。

今後の展望

今後とも，職場の実践活動を通じた研究を行い，その成果を職場に還元したい。当面，教員の増員は望めないで，産業衛生の重要性を強く訴え，また大学院生，研究生の受け入れや他分野，他施設との共同研究で当分野の発展の活路を見出したい。

(8) 医学教育学分野

1. 研究の概要

平成20年度(2008年4月)より岐阜大学大学院医学系研究科医療管理学講座に「医学教育学」分野が開講された。医学教育学は、医学・医療教育分野における多面的な課題を究明し、効果的な教育方法を研究する学問領域であり、医学・医療教育を行うための具体的知識やスキルの習得をめざしている。本課程を修了した者は、医学教育学の専門家として、教員・医師・学生等を指導する能力を有し、教育システムを自ら構築・改善し、研究を遂行できることを目標とする。医学教育開発研究センターは全国共同利用施設として活動しており、今後、全国からの大学院教育希望者の受け皿としても機能して行きたいと考えている。

2. 名簿

教授(併任)：鈴木 康之 Yasuyuki Suzuki
教授(併任)：藤崎 和彦 Kazuhiko Fujisaki
教授(併任)：丹羽 雅之 Masayuki Niwa

3. 研究成果の発表

著書(和文)

- 1) 鈴木康之. 医学教育：小児科学第3版，東京：医学書院；2008年：309-313.
- 2) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編. 新しい医学教育の流れ'07秋-第26回医学教育セミナーとワークショップの記録-，名古屋：三恵社；2008年：1-100.
- 3) 藤崎和彦. 行動変容をうながすための面接スキル-保健指導対人援助スキルの学習-：日本生活協同組合連合会医療部会；2008年：1-45.
- 4) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編. 新しい医学教育の流れ'08冬-第27回医学教育セミナーとワークショップの記録-，名古屋：三恵社；2008年：1-130.
- 5) 鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編. 新しい医学教育の流れ'08春-第28回医学教育セミナーとワークショップの記録-，名古屋：三恵社；2008年：1-152.
- 6) 藤崎和彦. 患者-医療者関係-：日本産業カウンセリング学会編. 産業カウンセリング辞典：金子書房；2008年：74.

著書(欧文)

- 1) Suzuki Y, Niwa M, Shibata T, Chirasak K, Ariyawardana A, Ramesh JC, Evans P, Takahashi Y. Internet PBL: International Collaborative Learning Experiences In: Oon-Seng Tan, ed. Problem-based Learning in E-learning Breakthroughs. Singapore: Thomson Learning;2007:131-146.

総説(和文)

- 1) 川上ちひろ，藤崎和彦. 模擬患者のための「フィードバックワークシート」の提案，医学教育 2008年；39巻：417-420.
- 2) 樫田美雄，岡田光弘，五十嵐素子，宮崎彩子，真鍋陸太郎，藤崎和彦，北村隆憲，高山智子，太田能，玉置俊晃，寺嶋吉保，阿部智恵子，島田昭仁，小泉秀樹. 高等教育改革の相互行為分析-ビデオ・エスノグラフィー研究の狙いと工学部都市工学演習の実際-，大学教育研究ジャーナル 2008年；5号：93-104.

総説(欧文)

なし

原著(和文)

- 1) 鈴木康之，高橋孝雄，中畑龍俊，奥山真紀子，松尾雅文，堤 裕幸，五十嵐隆，河野陽一，古川 漸，原寿郎. 日本小児科学会教育委員会報告 小児科卒前臨床実習に関するアンケート調査結果，日本小児科学会雑誌 2008年；112巻：793-801.
- 2) 阿部恵子，藤崎和彦，伴信太郎. 模擬患者の協力を得た身体診察実習の今後の方向性，日本保険医療行動科学学会年報 2008年；23巻：59-73.

原著(欧文)

- 1) Evans P, Suzuki Y. "Beyond Competence". Why Should Outcomes be Adopted in Favour of Competences? Medical Education (Japan). 2008;39:87-91.
- 2) Evans P, Suzuki Y. "Beyond Competence", Assessment for Capability. Medical Education (Japan). 2008;39:93-96.
- 3) Evans P, Suzuki Y, Begg M, Lam W. Can medical students from two cultures learn effectively from a shared web-based learning environment? Medical Education. 2008;42:27-33.

IF 2.562

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：高橋優三，研究協力者：丹羽雅之；知的クラスター創成事業：「テーマ I：低侵襲微細手術支援・教育訓練システムの開発：医療教育訓練ロボット」；平成 19-20 年度；46,432 千円(23,200：23,232 千円)
- 2) 研究代表者：鈴木康之；平成 19 年度 現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代 GP)：「臨床医学教育を強化向上させる ICT：e-Learning で培う医の心と技」；平成 19-21 年度；69,973 千円(23,993：21,980：24,000 千円)
- 3) 研究代表者：鈴木康之，研究分担者：加藤智美，阿部恵子；文部科学省科学研究補助金基盤研究(C)(2)：小児領域における客観的臨床能力評価システムの開発；平成 20-22 年度；4,800 千円(2,300：1,100：700 千円)
- 4) 研究代表者：榎田美雄(徳島大学総合科学部)，研究分担者：藤崎和彦；文部科学省科学研究補助金基盤研究(B)(2)：高等教育改革のコミュニケーション分析 - 現場における文化変容の質的検討 - ；平成 18-20 年度；14,500 千円(5,100：4,800：4,800 千円)
- 5) 研究代表者：鈴木富雄(名古屋大学医学部附属病院総合診療部)，研究分担者：阿部恵子，伴信太郎；文部科学省科学研究補助金基盤研究(C)(2)：日本の医学教育における 6 年間統合型行動科学教育プログラムの開発に関する研究；平成 18-20 年度；3,400 千円(1,300：900：1,200 千円)
- 6) 研究代表者：植村和正(名古屋大学医学部医学教育センター)，研究分担者：阿部恵子，茂木七香；文部科学省科学研究補助金基盤研究(C)(2)：医学生の「死の教育」への模擬患者導入の教育的効果の研究；平成 19-20 年度；2,870 千円(1,417：1,453 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

鈴木康之：

- 1) 日本医学教育学会理事(～現在)

藤崎和彦：

- 1) 日本医学教育学会評議員，理事(～現在)
- 2) 日本医学教育学会教材開発・SP 小委員会委員長(～現在)
- 3) 医療コミュニケーション研究会会長(～現在)
- 4) 特定非営利活動法人日本家庭医療学会理事(～平成 20 年 6 月)
- 5) 日本社会医学会評議員(～現在)
- 6) 日本医療経済学会幹事(～現在)
- 7) RIAS 研究会会長(平成 18 年 4 月～現在)

丹羽雅之：

- 1) 日本医学教育学会評議員(～現在)

阿部恵子：

- 1) Association of Standardized Patient Educators, International committee member(平成 19 年 11 月～現在)
- 2) RIAS 研究会委員(平成 18 年 4 月～現在)

2) 学会開催

鈴木康之：

- 1) 第 27 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 1 月, 名古屋)
- 2) 第 28 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 5 月, 大阪)
- 3) 岐阜大学模擬患者の会 10 周年記念シンポジウム(平成 20 年 6 月, 岐阜)
- 4) 第 29 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 8 月, 岐阜)
- 5) 第 30 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 20 年 10 月, 東京)

藤崎和彦, 阿部恵子：

- 1) 第 3 回 RIAS ワークショップ(平成 20 年 10 月, 11 月, 名古屋)

3) 学術雑誌

鈴木康之：

- 1) Medical Education: Editor(2008 年～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

鈴木康之：

- 1) 第 111 回日本小児科学会学術集会(平成 20 年 4 月, 東京, 大学病院の立場から見た教育・研究における病診連携. 総合シンポジウム 5 「診療・教育・研究をふまえた病診連携の現状と未来」 演者)
- 2) 23rd Annual Meeting of Korean Society of Medical Education. (2008.05, Seoul, Plenary Lecture: Medical Education in Japan: past, present and future; Performer)
- 3) 東海北陸地区臨床研修病院説明会(平成 20 年 5 月, 名古屋, 「未来の日本を創る小児科医」 演者)
- 4) 平成 20 年度岐阜県看護教育連絡協議会総会(平成 20 年 6 月, 岐阜, 特別講演「看護教育における模擬患者導入の意義」 演者)
- 5) 第 40 回日本医学教育学会大会(平成 20 年 7 月, 東京, Medical Education in Korea: The Historical background and the influence of U.S. by Myung-Hyun Chung. 座長)
- 6) 第 122 回日本小児科学会岩手地方会(平成 20 年 12 月, 盛岡, 「医学教育における小児科医の役割」 演者)

阿部恵子：

- 1) 愛知医科大学 SP 養成セミナー(平成 20 年 8 月, 名古屋, 講演「日本と世界の SP 事情」 演者)
- 2) Association for Medical Education in Europe(2008.08, Prague Czech Republic, Pre-conference: High stakes, low stakes, the proof is in the pudding preparation for quality SP programs; Performer)
- 3) International Conference on Communication in Healthcare 2008 by European Association for Communication in Healthcare (2008.09, Oslo Norway, Symposium-Developing a global network of national RIAS centres: RIAS Japan; Symposist)
- 4) 平成 18-20 年日本学術振興会科学研究補助金交付研究「日本の医学部教育における 6 年間統合型行動科学教育プログラムの開発に関する研究」シンポジウム: 卒前医学教育における行動科学教育シンポジウム in NAGOYA(平成 20 年 11 月, 名古屋, 講演「地域でのコミュニケーション教育が情動に与える影響と家族ライフサイクルという視点の必要性: 園児・妊婦との継続的交流から」 演者)
- 5) 第 2 回埼模擬患者養成セミナー(平成 20 年 11 月, 埼玉, 「フィードバックの基本」 演者)
- 6) 第 11 回日本コミュニケーション学会中部四国支部大会・医療コミュニケーション教育研究セミナー(平成 20 年 11 月, 広島, 「世界の SP 活動: SP の演技・フィードバック」 演者)
- 7) 第 15 回医療コミュニケーション研究会(平成 20 年 11 月, 名古屋, 「AMEE・EACH 学会報告」 演者)
- 8) 第 2 回医療コミュニケーション・ファシリテーター養成セミナー(平成 20 年 12 月, 名古屋, 「世界の SP 活動」 演者)

若林英樹：

- 1) 平成 18-20 年日本学術振興会科学研究補助金交付研究「日本の医学部教育における 6 年間統合型行動科学教育プログラムの開発に関する研究」シンポジウム: 卒前医学教育における行動科学教育シンポジウム in NAGOYA(平成 20 年 11 月, 名古屋, 講演「日本における今後の統合型行動科学教育

を考える」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

鈴木康之：

- 1) 厚生労働省第 102 回医師国家試験試験委員(～現在)

藤崎和彦：

- 1) 医療系大学間共用試験実施評価機構医学系 OSCE 事後評価解析小委員会委員，学習・評価項目等改訂専門部会委員，課題改訂専門部会委員(～現在)
- 2) 大学基準協会「特色ある大学教育支援プログラム」ペーパーレフェリー(～現在)
- 3) 厚生労働省第 101 回医師国家試験 試験委員(～現在)
- 4) 厚生労働省第 102 回医師国家試験 試験委員(～現在)

10. 報告書

- 1) 藤崎和彦：臨床倫理実践のためのコミュニケーション：日本医学教育学会倫理・行動科学小委員会第 3 回臨床研修指導者のための倫理教育ワークショップ報告書：55-58(2008 年 1 月)
- 2) 藤崎和彦，上町亜希子：薬学部 6 年制へ - これからの薬剤師に求められるコミュニケーションスキル：阪神・淡路大震災後の地域社会との共生をめざした大学の新しい役割に関する実践的研究報告書第 27 号：1-50(2008 年 1 月)
- 3) 丹羽雅之：第 28 回医学教育セミナーとワークショップ アナウンスメント：医学教育 38：86(2008 年 3 月)
- 4) 丹羽雅之：第 29 回医学教育セミナーとワークショップ ニュース：医学教育 38：359(2008 年 10 月)
- 5) 丹羽雅之：第 30 回医学教育セミナーとワークショップ アナウンスメント：医学教育 39：346(2008 年 10 月)
- 6) 丹羽雅之：第 31 回医学教育セミナーとワークショップ アナウンスメント：医学教育 39：469(2008 年 12 月)
- 7) 阿部恵子，藤崎和彦，丹羽雅之，鈴木康之，Phillip Evans：独自性豊かな SP 養成プログラム - スコットランド 5 大学視察報告 -：医学教育 39：199-204(2008 年)
- 8) 阿部恵子，鈴木富雄，藤崎和彦，伴信太郎：標準模擬患者の練習状況と OSCE に対する意識 全国調査第 2 報：医学教育 39：259-266(2008 年)

11. 報道

- 1) 藤崎和彦：市民が模擬患者として参加する医学教育：Medical Tribune(2008 年 2 月 21 日)
- 2) 藤崎和彦：未来の医師が来ない～研修医ゼロの衝撃～：NHK ナビゲーション スタジオ解説(2008 年 6 月 6 日)
- 3) 阿部恵子，藤崎和彦：患者を生きる 模擬患者 情報編：朝日新聞(2008 年 10 月 5 日)
- 4) 藤崎和彦：患者を生きる 模擬患者 情報編：朝日新聞(2008 年 10 月 10 日)

12. 自己評価

評価

平成 20 年 4 月に開講して間もないため，まだ十分な評価は出来ないが，以下のような研究を推進する計画である。本年度，大学院生（社会人）を 1 名受け入れ，教育を開始した。

- 1) カリキュラム開発と学生評価法
- 2) コミュニケーション教育と Professionalism 教育
- 3) より効果的な能動的・問題基盤型学習
- 4) シミュレーション教育・臨床スキル教育と E-learning の融合
- 5) 地域基盤型医学教育と総合医の育成方法
- 6) より効果的な臨床教育法・指導法の開発
- 7) 日本における医学教育学研究の推進と専門家育成

現状の問題点及びその対応策

医学教育学の研究の歴史は浅く、また研究手法も一般的な医学生物学領域の研究と大きく異なるが、欧米では1つの研究分野として定着している。本邦においても医学教育学分野の存在に関して認識を広める必要がある。また研究手法を確立し普及する役割も担っていると考えている。現状では医学教育研究分野に関心を示す医師・医療関係者はまだ少ないが、潜在的ニーズは大きいと期待されるので、その発掘に努めたい。

今後の展望

本分野が大学院の一分野として確立することが当面の目標であり、着実な研究成果の発信と人材育成を通して、日本における医学教育学の確立に貢献することが中長期的な目標である。さらに国際交流を通じて、日本の医学教育を世界に発信して行きたいと考えている。